

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

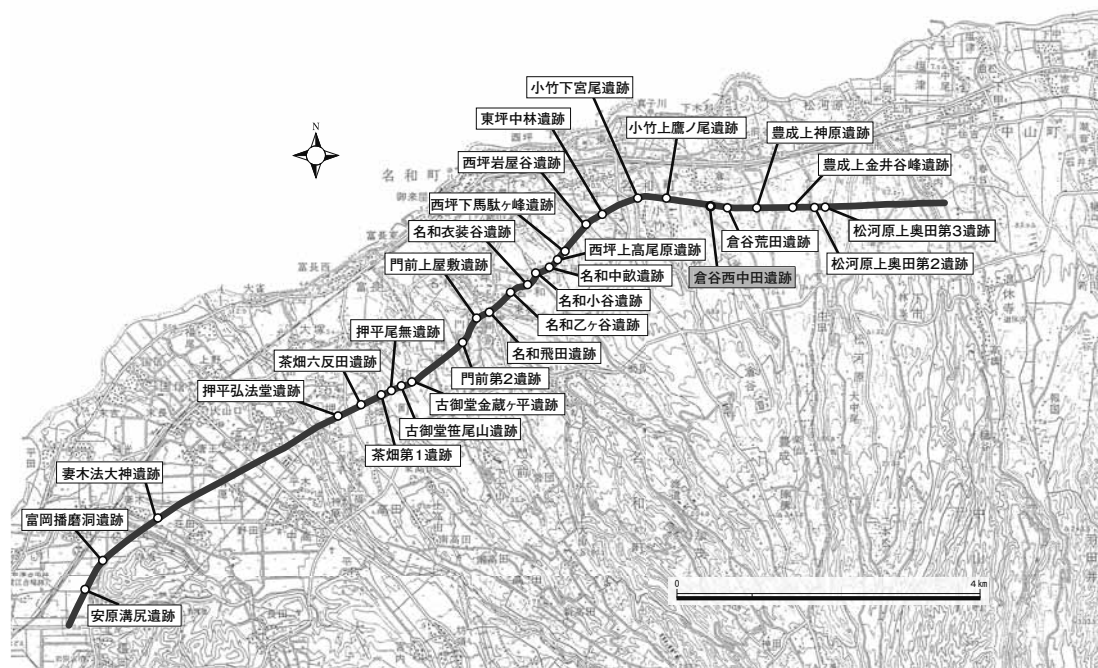
本調査は、平成21年度一般国道9号名和淀江道路の改築に伴い行った、西伯郡大山町倉谷地内の工事予定地内に所在する、周知の埋蔵文化財包蔵地（以下「遺跡」）である倉谷西中田遺跡の発掘調査である。

山陰地方では、国道9号線の交通混雑緩和、荒天時の交通障害解消、災害時の緊急輸送の代替道路確保及び将来の国土幹線道路整備として、山陰自動車道の整備事業が進められ、鳥取県西部地域では、米子道路、名和淀江道路の一部が自動車専用道路として共用されている。

このうち、大山町を通る名和淀江道路の計画地内及び隣接地には、多くの周知の遺跡があり、建設に先立って計画地内の遺跡並びに遺跡の範囲を確認する必要性が生じた。このため、平成2年度から旧大山町及び旧名和町各教育委員会、平成19年度から大山町教育委員会によって、国庫補助事業として逐次試掘、確認調査が行われた。

その結果を受け、文化財保護法に基づく手続きを踏まえ、平成12年度から平成16年度にかけて、財団法人鳥取県教育文化財団埋蔵文化財センターが調査主体となり、安原溝尻遺跡など17箇所の遺跡発掘調査を行い、平成17・18年度から鳥取県埋蔵文化財センターが調査主体となり、門前上屋敷遺跡など4箇所の遺跡発掘調査を行い、平成20年度では小竹下宮尾遺跡など2箇所の遺跡発掘調査を行い、各報告書が刊行された。

平成21年度は、西坪上高尾原遺跡、西坪下馬駄ヶ峰遺跡、小竹上鷹ノ尾遺跡、倉谷西中田遺跡、倉谷荒田遺跡、豊成上神原遺跡、豊成上金井谷峰遺跡、松河原上奥田第3遺跡が本調査の対象となった。



第1図 名和淀江道路関係遺跡位置図

【参考文献】

- 名和町教育委員会2000『名和町内遺跡分布調査報告書』名和町埋蔵文化財発掘調査報告書第26集
名和町教育委員会2004『名和町内遺跡発掘調査報告書』名和町文化財調査報告書第33集
大山町教育委員会1990『大山町内遺跡発掘調査報告書 安原所在遺跡・平第2遺跡』大山町埋蔵文化財調査報告書10

第2節 調査の方法と経過

1 調査区の名称と調査方法

倉谷西中田遺跡の調査前の状況は、水田及び竹林である。調査に先立ち便宜的に調査区を1区から4区に区分けし、調査に取り掛かった。重機表土剥ぎ後、世界測地系国土座標第V系に載るように調査区内に10m方眼の基準杭を設定し、グリッドを設けた。グリッド名は、東西南北軸交点の北東杭名を採った。座標は、B12杭(X: -54260m, Y: -72590m)、X2杭(X: -54160m, Y: -72810m)などとなった。標高値は、国土交通省2級基準点H18-2-4の63.143m、H18-3-7の59.387mを使用した。

検出した遺構・遺物の記録には、光波トランシット及び自動レベルを用い、簡易遣り方測量及び光波トランシットによる座標測量を行った。現地での写真撮影は35mm判、ブローニー(6×7)判及び4×5判カメラにより、地上又は写真用足場上から行った。また、調査前状況及び調査後状況写真については、ラジコンヘリコプターからの空中写真撮影(ブローニー判カメラ使用)も併せて行った。遺物写真撮影は、ブローニー(6×7)判及び4×5判カメラを用いた。いずれも白黒ネガフィルム並びにカラーポジフィルムを使用し、適宜デジタルカメラも使用した。

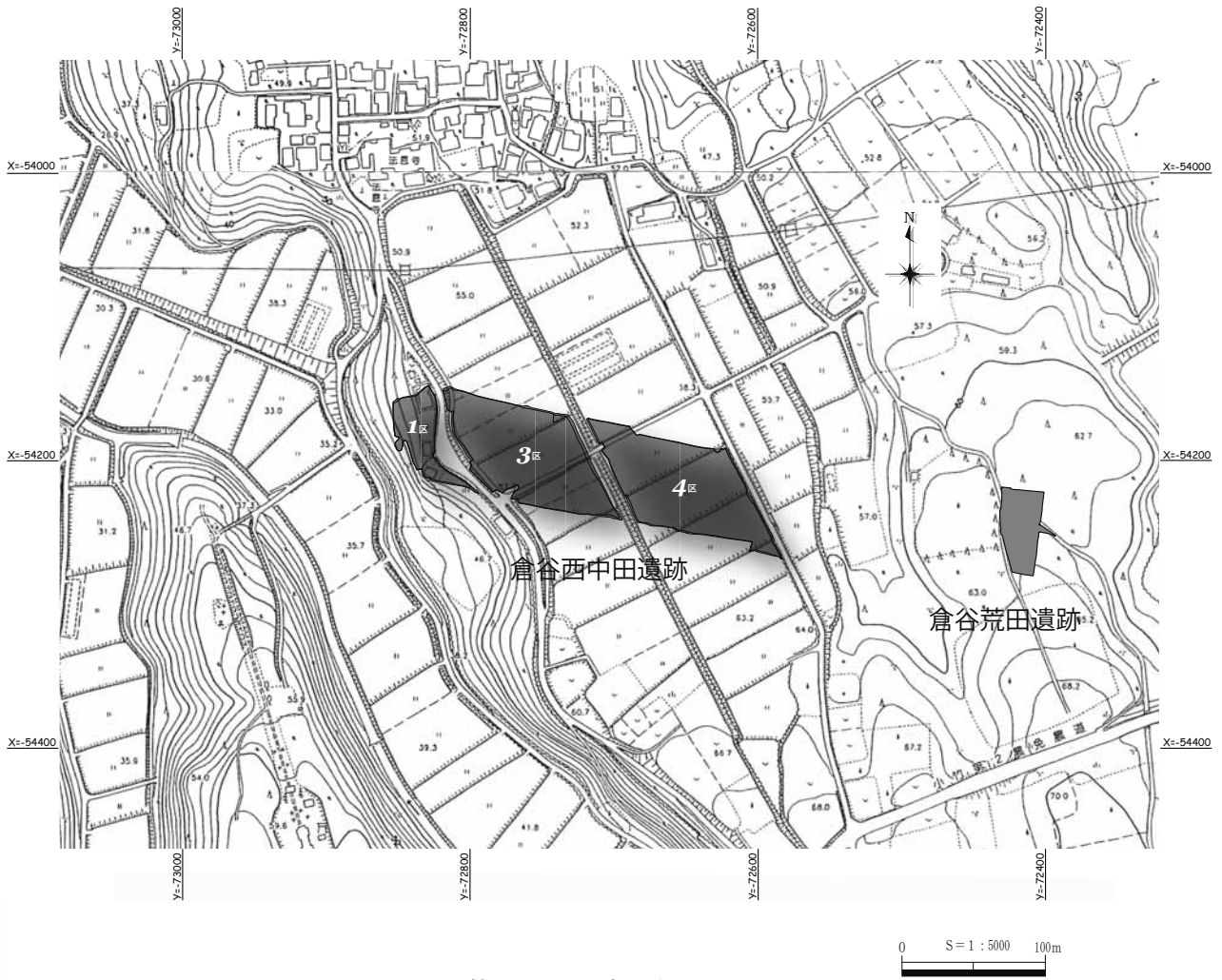
2 調査の経過

平成21年度調査は、当初3区・4区を対象に調査を行うこととなった。重機による表土剥ぎ作業は、まず4月6日から4月13日にかけて3区及び4区一部について行ったが、排土処理の関係及び調査区内を走る農道の付け替え工事などが予定されたため計5回に亘り随時表土剥ぎ作業を行った。4月16日には発掘作業員オリエンテーション、4月17日から方眼測量を業者委託し調査に取り掛かった。その後、1区についても国土交通省との協議の結果調査の対象地区となり、重機表土剥ぎ作業を9月1日から9月8日にかけて実施した。その際に遺構がさらに西側に延びることが判明したことにより、重機表土剥ぎを10月5日に行った。

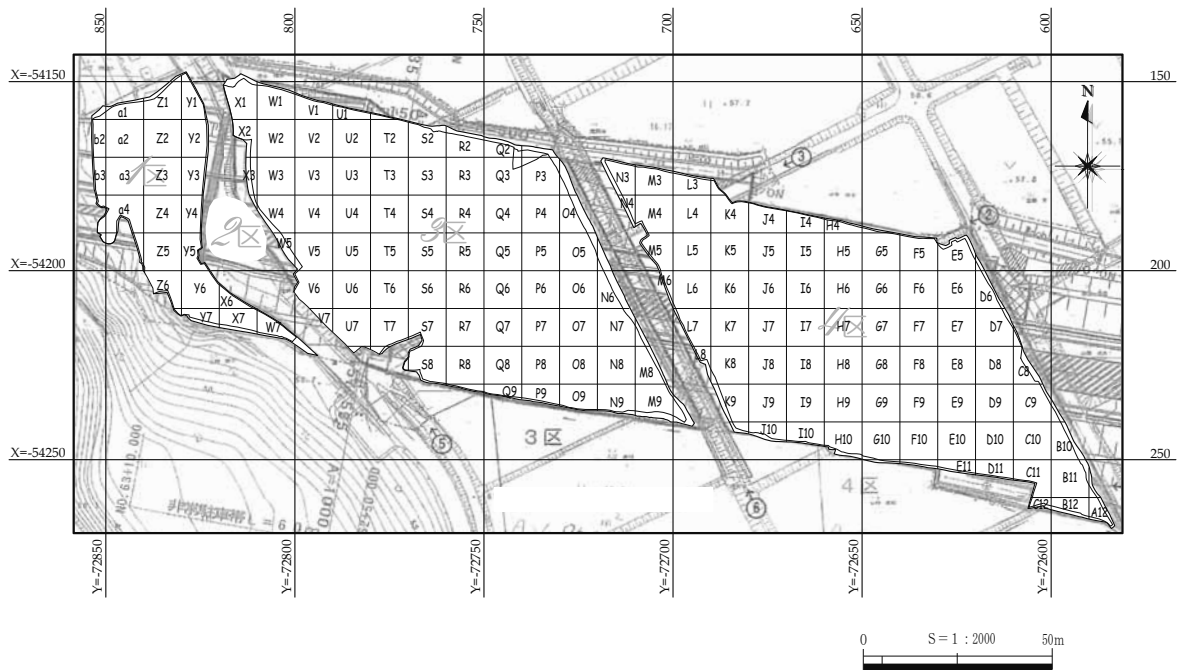
1・3・4区の遺構検出及び掘下げ作業は、11月27日まで行った。途中11月8日には、一般の方を対象とした現地説明会を開催したところ、県内外から78名の方々に参加いただいた。その後11月10日に3・4区の調査後航空写真撮影、11月26日に1区調査後航空写真撮影を業者委託した。調査後地形測量は、11月24日から3区東側及び1区を対象に業者委託するとともに遺構実測補足作業を行い、12月2日にすべての作業を終了した。

調査の結果、縄文時代の落とし穴28、弥生時代後期の竪穴住居跡2、掘立柱建物跡6、土坑6、奈良時代の掘立柱建物跡7、段状遺構3、土坑6、中世の掘立柱建物跡7、堀4、井戸・墓をはじめとする土坑31、道路2、近世以降の溝10、土坑3、時期不明の掘立柱建物跡5、土坑8、溝10などを検出した。調査面積は、当初13,665㎡であったが、1区の追加があり15,500㎡に変更となった。

なお、町道道路敷き部分に当たる2区については、平成22年度以降に行うこととなった。



第2図 調査区位置図



第3図 倉谷西中田遺跡区割り図

第3節 調査体制

下記の体制で発掘調査、報告書作成を行った。

平成21年度

鳥取県埋蔵文化財センター

所 長 久保 穰二郎
 次 長 中尾 淳一(兼総務係長)
 総 務 係
 副 主 幹 福島 良
 主 事 浜辺 奈都美

発掘事業室

室 長 山栢 雅美(兼調整係長)
 調 整 係
 発掘調査員 岩垣 命
 調査担当(琴浦調査事務所)
 副 主 幹 牧本 哲雄(統括責任者兼調査担当責任者)
 文化財主事 門脇 隆志、川部 浩司、坂本 嘉和、関広 尚世、山梨 千晶

調査日誌抄

4月6日	重機表土剥ぎ作業開始(~4月13日)	4区4地形測量、SE1・SB8完掘写真
4月16日	発掘作業員説明会	9月1日 1区表土剥ぎ(~9月8日)、4区2黒色土検出作業、SK38・39・42・44・45土層断面写真、3
4月17日	発掘用具搬入	区ピット群12平面実測
4月23日	土坑・SD1検出掘り下げ	
5月1日	SI1検出写真、SX1完掘写真	9月15日 SD15検出写真、SD21検出作業、SK50検出・土層断面写真、SD1完掘写真、SK47・48完掘写真
5月26日	SI1平面実測、SK19完掘写真、SB6完掘写真、3区土坑土層断面図作成	10月5日 ピット群7完掘、SK54・55完掘、SD21完掘写真、SD25検出・掘り下げ、SD18掘り下げ、SD26完掘写真・平面実測、SI2遺物出土状況写真・取り上げ、1区拡張部分表土剥ぎ終了
6月3日	ピット群4平面実測終了、SK12平面実測終了、4区3南側部分完掘・地形測量終了	
6月8日	SD14掘り下げ、3区2表土剥ぎ(~6月11日)	
6月12日	4区2・3北側表土剥ぎ(~6月18日)	10月16日 ピット群6完掘、SD18掘り下げ、SI2断面写真、ピット群11検出、1区検出作業
6月30日	SD15掘り下げ、SK29・31・32半裁掘り下げ	
7月9日	SD15土層断面2写真撮影・除去、SD15完掘写真①、SB1周辺平面実測	10月23日 SD15・SD18完掘写真、ピット群8平面実測、SK58~67土層断面実測
7月22日	4区4表土剥ぎ(~7月27日)	11月8日 現地説明会。78名参加
7月27日	3区3東側表土剥ぎ	11月10日 3・4空撮、SD23検出、SS2検出写真
8月6日	4区4検出作業、SD15平面実測	11月18日 SS2遺物出土状況写真、SK73断面写真、SK70・71検出写真、SS1掘り下げ、SI2平面実測終了
8月24日	4区2黒褐色土掘り下げ、3区ピット群12掘り下げ、SE1掘り下げ、SK38土器出土状況写真	11月27日 現地掘り下げ作業終了、撤収作業
8月31日	3区3西側表土剥ぎ(~9月2日)、SD15検出、	12月2日 SD23平面実測終了、すべての現地作業終了

第2章 位置と環境

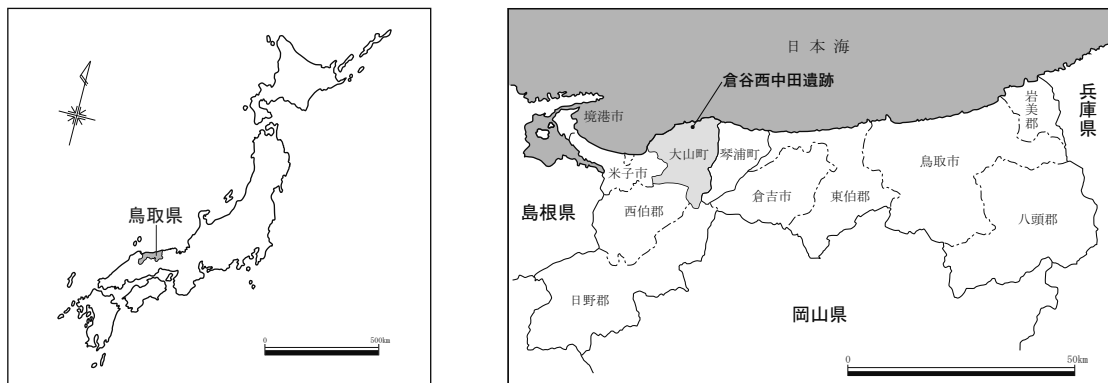
第1節 地理的環境

倉谷西中田遺跡が所在する大山町は、鳥取県西部、西伯郡の北東部を占める位置にあり、県庁所在地の鳥取市からは西へ約80km、県西部中核都市の米子市に隣接する。町域は、南端の大山(1,729m)を頂点に、船上山(615m)から金屋付近の日本海に至る線を東辺とし、西辺は大山を頂点に下槇原・孝霊山(751m)を結び保田付近の日本海に至る、不整逆三角状に広がる形を呈す。東西約15km、南北約20km、総面積は約189.8km²を測り、人口は18,478人(平成22年1月)の農畜産漁業・観光を主な産業にする町である。

本町の地勢は、大山山系から放射状に流れる小河川により開削並びに侵食され残った、手指状に延びる台地上の尾根と急峻な小溪谷が繰り返す火山性台地と、甲川、下市川、真子川、名和川、阿弥陀川流域に発達した平野部からなる。平野部は、肥沃な黒ボク地帯で、特に阿弥陀川流域は県内でも屈指の広さとなる扇状地を形成している。台地は、御来屋砂礫層上に主に大山火山灰土の堆積したもので、海岸線付近まで延びている。町内には、前述の大山山麓に源流を発する河川の他、大小計12本の川が日本海に注いでいる。

倉谷西中田遺跡は、同町の北側ほぼ中央部に位置し、海岸線から約1.5km南側にある、倉谷集落の南側に隣接している。

大山山系から派生する、標高約49～61mの丘陵斜面から丘陵上及び丘陵に挟まれる小さな谷部にかけて立地している。周辺には、当遺跡の東側約240mに倉谷荒田遺跡が隣接している他、谷を挟んで西側約400mには、小竹上鷹ノ尾遺跡がある。



第4図 倉谷西中田遺跡位置図

第2節 歴史的環境

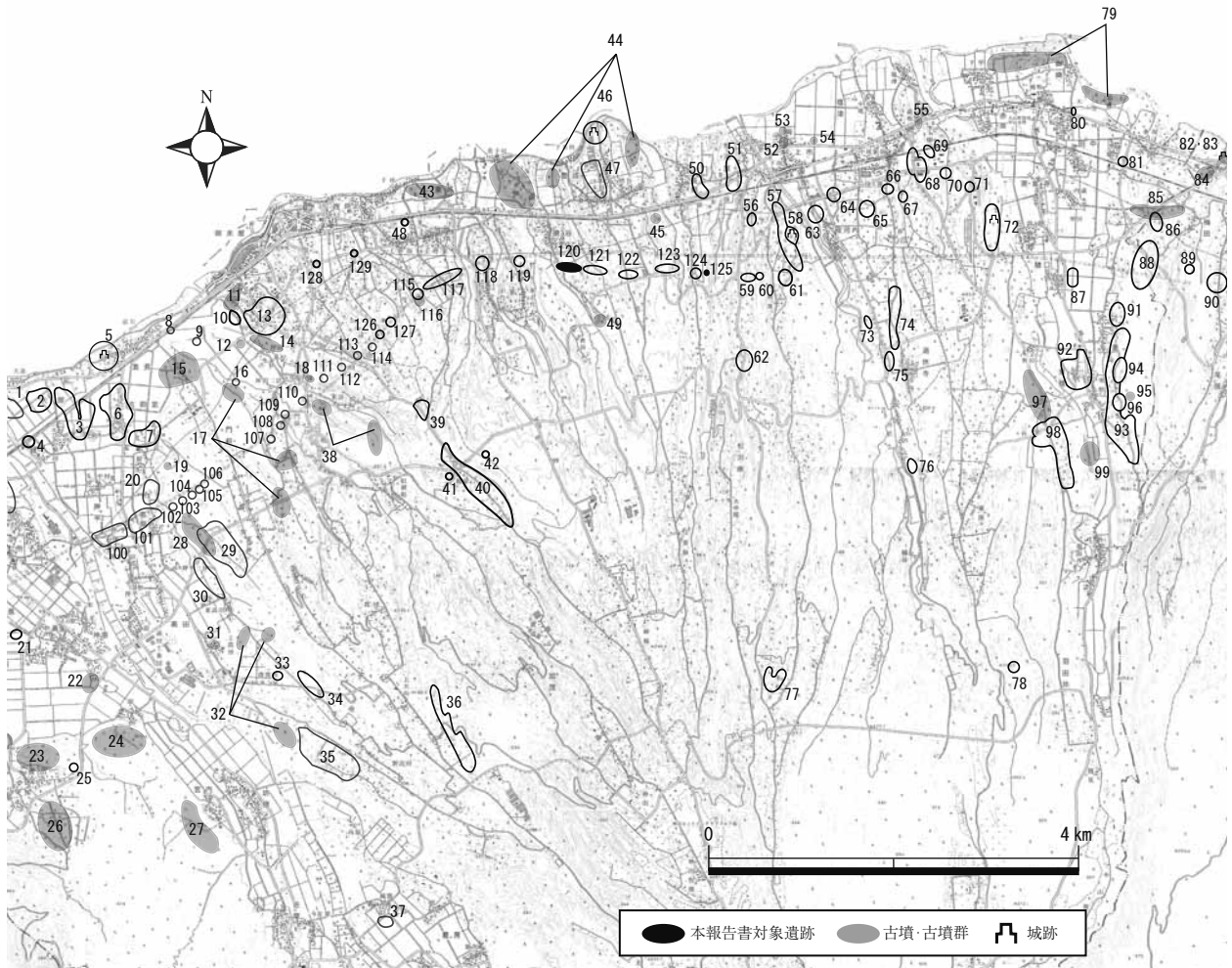
大山町内では近年、山陰道関連の発掘調査をはじめ発掘調査が多数行われている。ここでは倉谷西中田遺跡周辺である大山町の中央から東側に位置する、おおよそ旧名和町及び旧中山町に所在する遺跡について、時代ごとに概要を述べる。

旧石器時代 近年大山山麓では、発掘調査によって後期旧石器遺物が確認されるようになった。門前第2遺跡(西畝地区)(107)では、AT火山灰層以下(25,000年以前)で黒曜石製ナイフ形石器・黒曜石剥片を含む石器群が確認されている。その他、本来の層位から遊離して、名和小谷遺跡(113)では黒曜石製国府型ナイフ形石器が、押平尾無遺跡(103)では角錐状石器が出土している。

縄文時代 当該地域は、県内においてもこの時期の遺跡が多数存在する地域である。退休寺、羽田井、上大山、大仙道、陣構、坊領、荘田などでは、草創期と考えられる有茎尖頭器、局部磨製石斧が表採されている。早期では、門前第2遺跡(菖蒲田地区)(107)で押型文土器とともに10基の配石群、名和飛田遺跡(110)では早期末から前期の土坑が検出されている他、遺構は伴わないが赤坂後口山遺跡(71)、退休寺飛渡り遺跡(75)、古御堂金蔵ヶ平遺跡(105)、上大山第1遺跡(36)、角塚遺跡(39)、高田第4遺跡(34)、蛇居谷遺跡、大道原遺跡、塚田遺跡、蔵岡第1遺跡(37)、茶畑山道遺跡(20)などで押型文土器等が出土している。前期では、石器製作址と推定される下市築地ノ峯東通第2遺跡(59)、名和乙ヶ谷遺跡(111)で玦状耳飾が出土している。中期では、貯蔵穴が確認された細工塚遺跡(63)などがある。後期では、南川遺跡(9)で石組炉を備えた住居跡、晩期では、大塚第3遺跡(1)で住居跡が見ついている。その他、落とし穴が八重第3遺跡(91)、小松谷遺跡(68)、下甲抜堤遺跡(70)、赤坂後口山遺跡、門前上屋敷遺跡(109)、門前第2遺跡、小竹下宮尾遺跡(118)、西坪岩屋谷遺跡(115)、倉谷西中田遺跡(120)など多数の遺跡で検出されており、狩猟場として丘陵・微高地縁辺部が利用された様子が窺われる。

弥生時代 この地域では前期の遺構は少なく、大塚岩田遺跡(2)で環濠の可能性のある溝が検出されている他、樋口第1遺跡(87)、三谷遺跡(98)などで土器が出土している程度である。中期になると遺跡数が増え、集落遺跡として細工塚遺跡、退休寺遺跡(74)、退休寺飛渡り遺跡、殿河内落合遺跡(73)、押平弘法堂遺跡(100)、名和飛田遺跡、門前上屋敷遺跡等が挙げられる。また、茶畑山道遺跡、茶畑第1遺跡(102)では独立棟持柱を備える大型掘立柱建物をもつ集落が検出され、当該地域の拠点的な集落と考えられている。後期には、退休寺遺跡、八重第3遺跡、大塚塚根遺跡(3)、押平尾無遺跡、茶畑第2遺跡(29)、茶畑六反田遺跡(101)、茶畑第1遺跡、東高田遺跡(30)、小竹下宮尾遺跡など丘陵上に集落遺跡が多数形成される。その中で、複数の丘陵上に展開する国史跡妻木晩田遺跡は、弥生時代中期以降夥しい数の住居・倉庫、四隅突出型墳丘墓、環濠などが造られるなど、集落研究にとって重要な遺跡である。当該期には、松尾頭地区において、首長居宅と考えられる竪穴住居と近接して祭殿と考えられる二面庇の高床建物も確認されている。終末期の墳墓としては、徳楽方墳(墳丘墓)、松尾頭1・2号墓、門前1号墓がある。

古墳時代 当該地域では、各時期において前方後円墳は確認されていない。前期では、小規模な方墳が茶畑第1遺跡で確認されているにすぎない。当該地域の古墳は、ほとんどが中期から後期にかけてのものであるが、中期のものうち、高塚古墳(54)、ハンボ塚古墳(12)は、葺石・埴輪などの外表施設を持つ大型円墳で、首長墳の内容を持つ。後期になると御崎古墳群(79)、東積古墳群(99)、三谷古



- | | | | | |
|-------------|---------------|-----------------|-----------------|----------------|
| 1 大塚第3遺跡 | 27 宮内古墳群 | 53 岡3号古墳 | 79 御崎古墳群 | 105 古御堂金蔵ヶ平遺跡 |
| 2 大塚岩田遺跡 | 28 茶畑古墳群 | 54 高塚古墳 | 80 御崎第2遺跡 | 106 古御堂新林遺跡 |
| 3 大塚塚根遺跡 | 29 茶畑第2遺跡 | 55 曲松古墳群 | 81 田中川上遺跡 | 107 門前第2遺跡 |
| 4 大塚屋敷遺跡 | 30 東高田遺跡 | 56 築地峯東通遺跡 | 82 筥津城 | 108 門前鎮守山城跡 |
| 5 富長城跡 | 31 高田26号墳 | 57 林之峯東通遺跡 | 83 筥津古墳群 | 109 門前上屋敷遺跡 |
| 6 古御堂遺跡 | 32 高田古墳群 | 58 天守山遺跡 | 84 坂ノ上古墳群 | 110 名和飛田遺跡 |
| 7 文殊屋敷遺跡 | 33 高田原廃寺 | 59 下市築地ノ峯東通第2遺跡 | 85 梅田(栄田)古墳群 | 111 名和乙ヶ谷遺跡 |
| 8 荒田遺跡 | 34 高田第4遺跡 | 60 下市築地ノ峯東通第3遺跡 | 86 梅田六ツ塚遺跡 | 112 名和衣裳谷遺跡 |
| 9 南川遺跡 | 35 高田第10遺跡 | 61 要害ノ峯遺跡 | 87 樋口第1遺跡(樋口遺跡) | 113 名和小谷遺跡 |
| 10 馬郡遺跡 | 36 上大山第1遺跡 | 62 築地ノ峰第3遺跡 | 88 梅田萱峯遺跡 | 114 名和中畝遺跡 |
| 11 名和公園裏古墳群 | 37 蔵岡第1遺跡 | 63 細工塚遺跡 | 89 梅田東前谷中峯遺跡 | 115 西坪岩屋谷遺跡 |
| 12 ハンボ塚古墳 | 38 梶原古墳群 | 64 向畑遺跡 | 90 筥津乳母ヶ谷第2遺跡 | 116 西坪岩屋谷古墳 |
| 13 長者原遺跡 | 39 角塚遺跡 | 65 住吉第4遺跡 | 91 八重第3遺跡 | 117 東坪中林遺跡 |
| 14 坪田古墳群 | 40 枡原遺跡 | 66 住吉第1遺跡 | 92 樋口第2遺跡 | 118 小竹下宮尾遺跡 |
| 15 富長山村古墳群 | 41 枡原窯跡 | 67 住吉第2遺跡 | 93 八重第4遺跡 | 119 小竹上鷹ノ尾遺跡 |
| 16 門前礎石群 | 42 上寺谷たたら | 68 小松谷遺跡 | 94 八重第1遺跡 | 120 倉谷西中田遺跡 |
| 17 門前古墳群 | 43 東坪古墳群 | 69 林之峯遺跡 | 95 岩屋平古墳 | 121 倉谷荒田遺跡 |
| 18 長綱時古墳群 | 44 豊成古墳群 | 70 下甲拔堤遺跡 | 96 八重第2遺跡 | 122 豊成上神原遺跡 |
| 19 原3号墳 | 45 豊成28号墳 | 71 赤坂後口山遺跡 | 97 三谷古墳群 | 123 豊成上金井谷峰遺跡 |
| 20 茶畑山道遺跡 | 46 長野城跡 | 72 石井垣城跡 | 98 三谷遺跡 | 124 松河原上奥田第2遺跡 |
| 21 清原遺跡 | 47 浜ノ坂遺跡 | 73 殿河内落合遺跡 | 99 東積古墳群 | 125 松河原上奥田第3遺跡 |
| 22 中高遺跡 | 48 龍光寺掘遺跡 | 74 退休寺遺跡 | 100 押平弘法堂遺跡 | 126 西坪上高尾原遺跡 |
| 23 長田古墳群 | 49 倉谷横穴墓 | 75 退休寺飛渡り遺跡 | 101 茶畑六反田遺跡 | 127 西坪下馬駄ヶ峰遺跡 |
| 24 平古墳群 | 50 松河原第1遺跡 | 76 退休寺第1遺跡 | 102 茶畑第1遺跡 | 128 名和下葛蒲谷遺跡 |
| 25 徳楽方墳 | 51 松河原第2遺跡 | 77 二本松遺跡 | 103 押平尾無遺跡 | 129 西坪三軒屋遺跡 |
| 26 源平山古墳群 | 52 岩屋堂古墳(岡古墳) | 78 羽田井遺跡 | 104 古御堂笹尾山遺跡 | |

第5図 周辺遺跡分布図

墳群(97)、高田古墳群(32)、門前古墳群(17)、豊成古墳群(44)、坪田古墳群(14)、富長山村古墳群(15)、蔵岡古墳群、宮内古墳群(27)、平古墳群(24)などが形成されている。このうち、御崎古墳群では塊石を用いた箱式石棺を有し、鳥取県中部地域に特徴的に見られる壺型埴輪が出土しており、他地域との交流がうかがわれる。また、岩屋堂古墳(52)、長野2号墳、岩屋平古墳(95)、三谷16号墳、東積11号墳、高田26・27号墳(31)、茶畑12号墳、豊成28号墳(45)、宮内1・2号墳、平狐塚古墳など切石積

み横穴式石室をもつものがあり、米子市淀江町域までの同一文化圏を形成している。また、高田25号墳は、横穴式石室内に家形石棺を内包する。当地域は豊成横穴群など横穴群も形成されている。この時代の集落は、依然丘陵上に営まれる傾向が強く、前期の茶畑第1遺跡、倉谷荒田遺跡(121)、中期から後期の押平尾無遺跡、古御堂笹尾山遺跡(104)、名和中畝遺跡(114)、大塚塚根遺跡、仁王堂遺跡、住吉第2遺跡(67)などがある。名和川の河岸段丘上には名和飛田遺跡、門前上屋敷遺跡がある。

古代 7世紀後半以降、山陰地方で仏教文化受容の痕跡が認められる。現在県内では22カ所の古代寺院が見つかっており、当該地域では高田原廃寺(33)がある。ここでは、乱石積基壇や溝状遺構が検出され、上淀廃寺式の単弁十二葉蓮華文軒丸瓦が出土している。その他、名和神社付近の長者原遺跡(13)が、『延喜式』に記載された古代山陰道の和奈駅(奈和の誤記か)として推定されている他、礎石建物、区画溝、大量の炭化米がみつまっていることから、^{あせり}汗入郡の正倉とも推定されているがいずれも明確ではない。大塚屋敷遺跡(4)では、倉庫群と考えられる掘立柱建物群が見つまっている。栃原窯跡(41)は須恵器窯と考えられるが、上寺谷たたら(42)の製鉄炉やその周辺での鉄滓表採事例などから、炭窯の可能性も指摘されている。細工塚遺跡では大型の掘立柱建物群が検出され、平安時代の官衙関連遺構や有力者層の建物と想定されている。名和衣裳谷遺跡(112)では2棟の大型掘立柱建物や鉄滓、緑釉・灰釉陶器が見つかっており、郡司層の居宅又は郡衙下部の鉄生産に関わる遺構と考えられている。茶畑六反田遺跡では、条里区画の一部と見られる溝が検出され、緑釉陶器や墨書土器が出土している。名和乙ヶ谷遺跡、小竹下宮尾遺跡では道路状遺構が検出されている。また、大山寺は、密教隆盛とともに信仰の中心的な役割を果たし、地方豪族に並ぶ僧兵勢力を有すようになる。なお、当該地域の古代の行政区画は、汗入郡^{つかづみ}東積郷、汗入郷、奈和郷、^{さかと}尺度郷、^{たかすみ}高住郷に属する。

中世 律令体制の崩壊とともに封建制社会が形成される。門前上屋敷遺跡では、中世の田畠跡の他、屋敷地を区画すると考えられる大溝、貿易陶磁が検出されている他大規模な造成が認められ、居館又は寺院跡の指摘もある。倉谷西中田遺跡でも、大規模な堀に区画された居館が見つまっている。門前礎石群は、青白磁・染付などの出土から中世以降の礎石建物と考えられる。旧名和町域には名和氏一族に関わるとされる旧跡が各所に見られる。その他、窺津豊後守敦忠の居城とされる石井垣城(72)、天守山城、香原山城、松尾城などの他、富長城(5)、長野城(46)、末吉城、福尾城など日本海沿岸部にも多く砦跡が築かれている。門前鎮守山城跡(108)では、大規模な土塁・堀切が検出された。門前第2遺跡では、中世から近世・近代にかけての大規模な墓地が形成されている。

近世 寛永9(1632)年に池田光仲が鳥取藩主となり、因伯は幕末まで池田氏の治世となる。この時代、御来屋は伯耆街道の宿駅、藩の運上米の積出港として重要な位置を占めた。

【参考文献】

- 名和町誌編纂委員会編1978『名和町誌』
- 鳥取県埋蔵文化財センター1986『鳥取県の古墳』
- 鳥取県埋蔵文化財センター1988『旧石器・縄文時代の鳥取県』
- 鳥取県埋蔵文化財センター1989『歴史時代の鳥取県』
- 内藤正中・真田廣幸・日置糸左エ門著1997『県史31 鳥取県の歴史』山川出版社
- 鳥取県教育委員会2004『鳥取県中世城館分布調査報告書』第2集(伯耆編)
- 中山町誌編集委員会編2009『新修中山町誌』
- 発掘調査報告書類については割愛させていただいた。

第3章 調査の成果

第1節 遺跡の立地と基本層序(第7～9図)

倉谷西中田遺跡は、大山山系から北側に派生する標高49～61mの丘陵斜面から丘陵上及び丘陵にはさまれる小さな谷部分にかけて立地している。当遺跡の東側には、主に弥生時代から古墳時代にかけて形成された集落遺跡である倉谷荒田遺跡がある。

調査の結果、当遺跡3・4区の大部分を占める丘陵部は、昭和50年代の圃場整備によりハードローム層まで掘削された後、造成土(丘陵部分の掘削によるローム層混じり土)によって平坦にされていることが判明した。

また、4区のSD14の西側、3区のRラインから東側、SD18より北側の範囲が谷地形となっており、黒褐色土から黒色土系の腐食層が基盤層となっている。この範囲においても、造成土によって平坦に造成されていた。

1区は、平坦部と斜面部に分かれる。平坦部には、調査区南側半分の範囲で表土下に厚さ5～40cm程度の整地層が認められた。この層は、近世以降の遺物を含むことから、近世以降の整地層と考えられる。整地層以下は一部に黒ボク層、ソフトローム層があったが、南側は御来屋礫層が基盤層となっている。斜面部は、ソフトローム層が遺構検出面となっている。

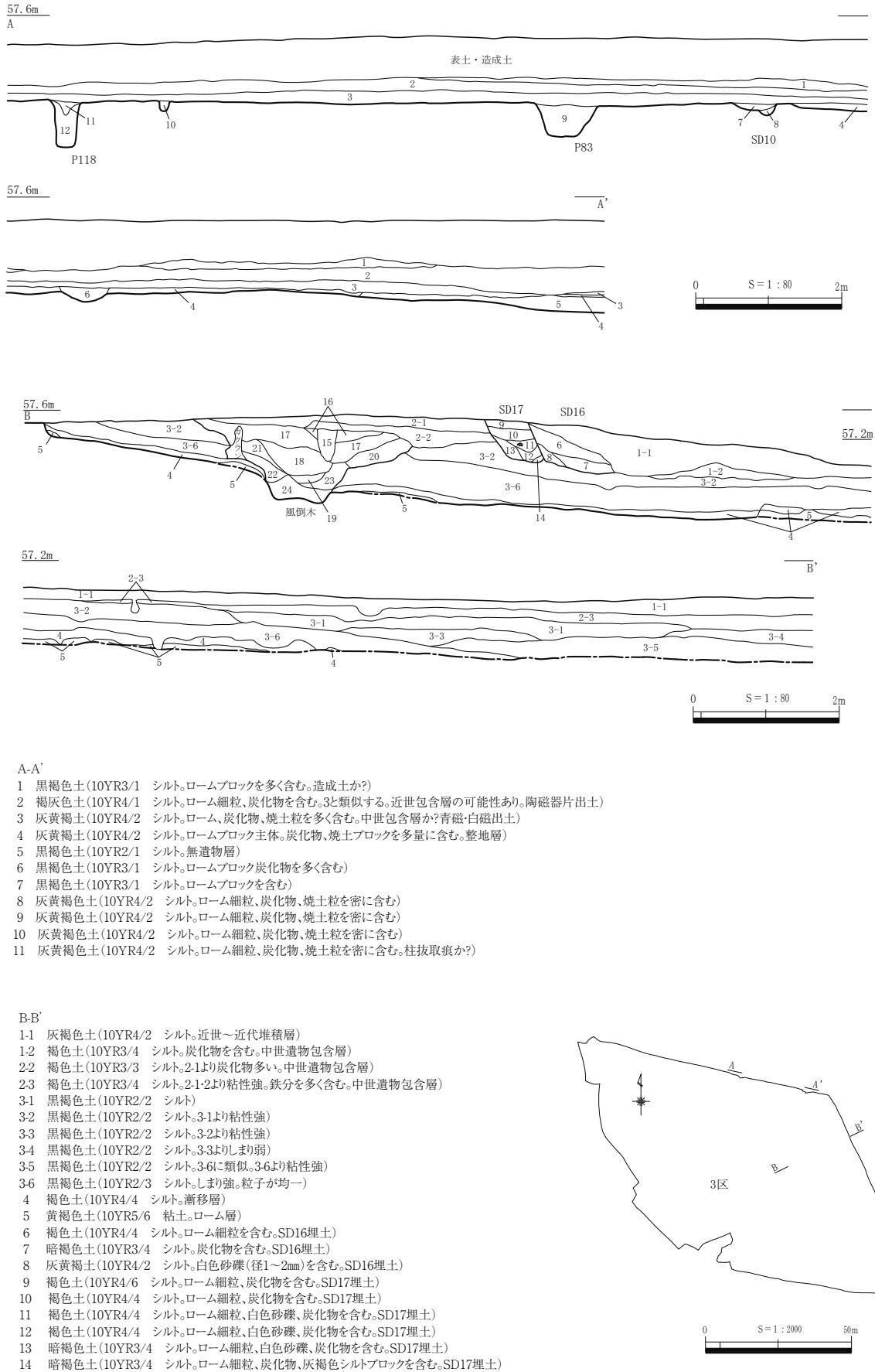
3区は、地形的に丘陵部と谷部に分かれる。丘陵部は、前述のとおり遺構検出面がハードローム層になっている。谷部のうち調査区北東側の基本層序(第7図A-A')は、厚さ約1mの耕作土及び造成土下に、近世の遺物包含層(第2層)、中世の遺物包含層(第3層、第4層)、第5層以下は黒褐色土系の無遺物層である。近世の遺物包含層及び中世の遺物包含層は、ロームブロックを主体にして炭化物が含まれ、薄い層状を成すことから、人為的な整地土の可能性がある。

3区の丘陵部から谷部に向かう土層断面(第7図B-B')を見ると、造成土下に、近世以降の遺物包含層(第1層)、中世の遺物包含層(第1～2層から第2～3層)となり、以下は黒褐色土系の無遺物層となっている。

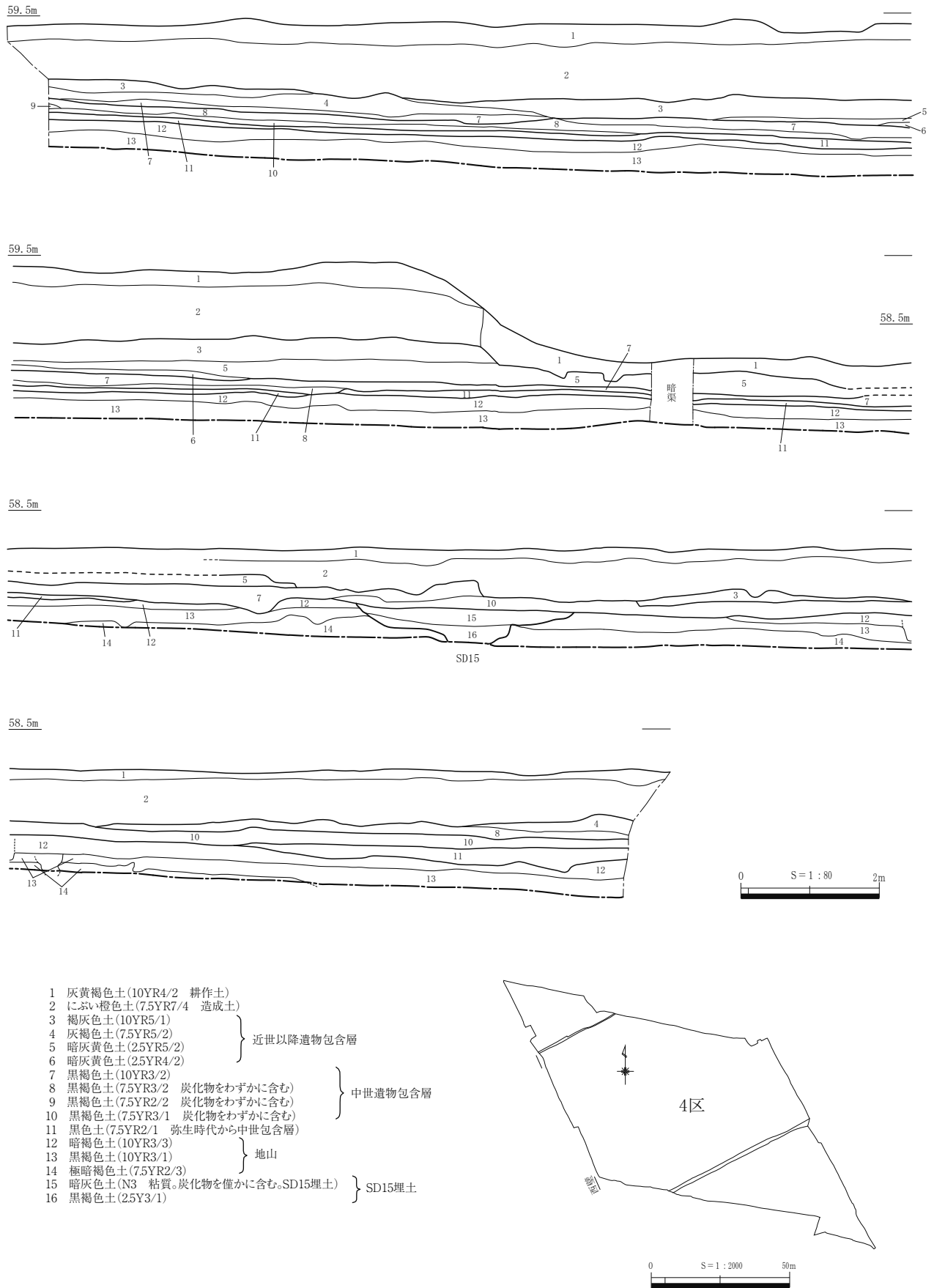
4区においても、地形的に丘陵部と谷部に分かれる。丘陵部は、3区同様遺構検出面がハードローム層になっている。谷部の基本層序(第8・9図)は、厚さ最大1.1mの現代耕作土及び造成土下に、近世以降の遺物包含層(第3層から第6層)、中世の遺物包含層(第7層から第10層)、弥生時代から中世の遺物包含する層(第11層)が確認された。第12層以下は無遺物層である。基盤層は南側から北側に向かって緩やかに傾斜しており、それに伴い遺物包含層も傾斜している。

なお、11層については、中世の遺物を包含しているが、調査区南側になるにつれて、弥生時代から古代の遺物を包含する割合が多くなり、中世の遺物は包含しなくなる。4区中央から北側において、中世段階で遺構が造られたことにより、11層中に中世の遺物が混入したと考えることができる。したがって、11層は古代には堆積が終了していたと考える。

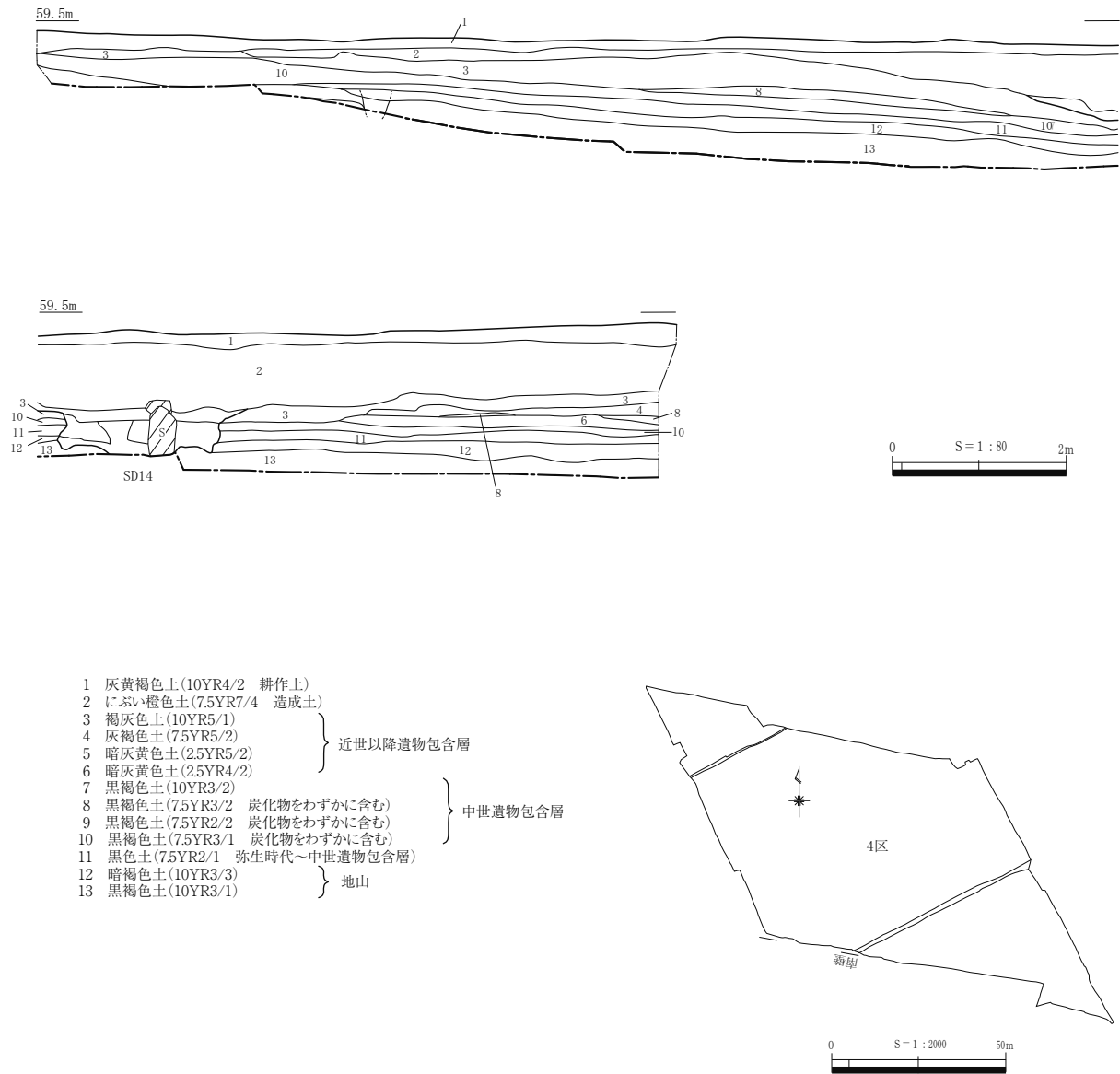
第3章 調査の成果



第6図 3区谷部土層断面図

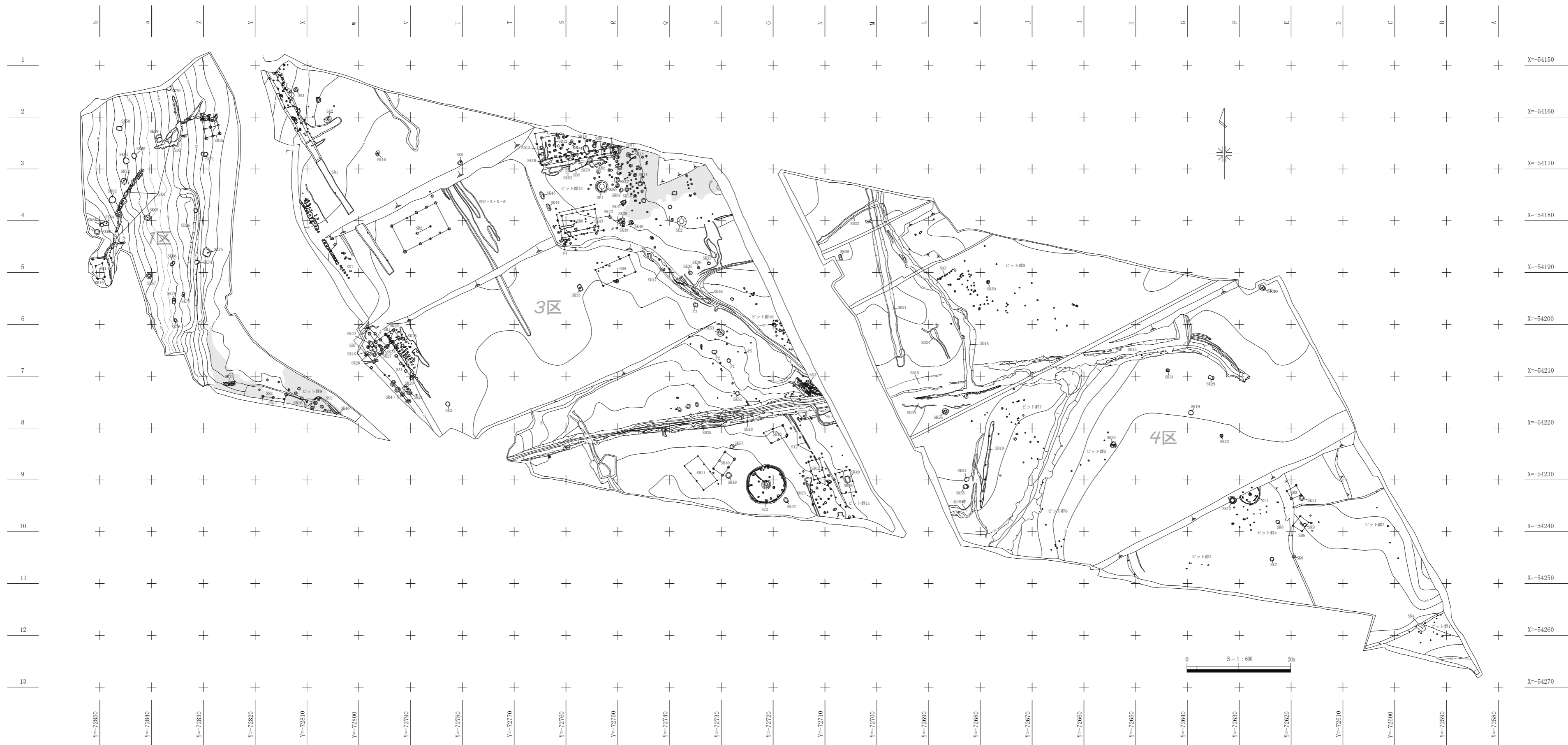


第7図 4区西壁土層断面図



- 1 灰黄褐色土(10YR4/2 耕作土)
 - 2 におい橙色土(7.5YR7/4 造成土)
 - 3 褐灰色土(10YR5/1)
 - 4 灰褐色土(7.5YR5/2)
 - 5 暗灰黄色土(2.5YR5/2)
 - 6 暗灰黄色土(2.5YR4/2)
 - 7 黒褐色土(10YR3/2)
 - 8 黒褐色土(7.5YR3/2 炭化物をわずかに含む)
 - 9 黒褐色土(7.5YR2/2 炭化物をわずかに含む)
 - 10 黒褐色土(7.5YR3/1 炭化物をわずかに含む)
 - 11 黒色土(7.5YR2/1 弥生時代~中世遺物包含層)
 - 12 暗褐色土(10YR3/3)
 - 13 黒褐色土(10YR3/1)
- 近世以降遺物包含層
- 中世遺物包含層
- 地山

第8図 4区南壁土層断面図



第9図 調査区地形測量図

第2節 遺跡の概要(第9図)

検出作業の結果、調査区全域に亘って縄文時代から近世にかけての多くの遺構、遺物を検出した。

縄文時代

1区西側の斜面部、3区西側及び東側の傾斜変換点付近、4区東側で落とし穴を28基検出した。

弥生時代

3・4区において竪穴住居跡2棟、掘立柱建物跡5棟、貯蔵穴1基を検出した。3区では非常に大型の竪穴住居跡であるSI2を取り囲むように、掘立柱建物跡が配置されている。また、4区ではSI1に近接して掘立柱建物跡SB3、貯蔵穴SK12がある。掘立柱建物跡としたSB6については、遺構上半が削平を受けた竪穴住居跡の可能性がある。検出した当該期の遺構は少ないが、調査区南側にはさらに遺構が広がっているものと考えられる。

古代

3区南西側から1区南側に限定されて遺構が見られ、3区西斜面部で掘立柱建物跡4棟以上、土坑1基が、1区で段状遺構3基に伴い掘立柱建物跡3棟、土壇墓と考えられるSK73を検出した。

中世

当遺跡で最も栄える時期で、堀に囲まれた屋敷地(居館)を検出することができた。堀は掘り直しが認められ、15世紀から16世紀には東西約130m、南北90m以上、幅約3m、深さ1.5mの堀によって歪な方形に区画されることが判明した。区画内では、掘立柱建物跡6棟、井戸2基、土壇墓1基などを検出した。また、出土遺物には国内産陶器・土器をはじめ中国産の青磁・白磁、朝鮮陶器などの他、鍛冶関連遺物が多数出土しており、遺跡の性格を考える上で興味深い資料である。

近世以降

水田跡2、耕作に伴う溝、土坑を検出した。

出土遺物

縄文土器、弥生土器、古墳時代の土師器、奈良時代の土師器、須恵器類、中世の土師質土器、国産陶器、輸入陶磁器、近世の国産陶磁器、鍛冶関連遺物、石器類、五輪塔など多量に出土した。

このうち、中世の堀に囲まれた屋敷地内からは、中国産の青磁・白磁がまとまって出土しており、遺跡の性格を考える上でも重要な資料である。また、当該期には、瀬戸・美濃焼、越前焼、備前焼などの国産陶器類も多量に出土しており、国内の交易を考える上でも興味深いものである。

さらに、鍛冶関連遺物も多量に出土しており、中世の居館周辺で鉄器生産が行われていた可能性が指摘できる。



文中写真1 3区重機表土剥ぎ作業風景

第3節 縄文時代の調査成果

1 概要(第10図)

当該期の遺構としては、落とし穴計28基を検出した。調査区は後世の削平を受けているために、落とし穴の立地環境を復元することはかなわないが、1区では10基(SK63・64・65・66・67・71・72・76・77・78)、3区では遺存状態が悪いものの8基(SK1・2・5・10・23・27・33・53)が、斜面部に列状に並ぶ。また、4区でも列状に並ぶと推定されるものを10基(SK6・7・8・9・11・19・29・30・31・32)検出した。

確実な時期をおさえることはできないが、SK10・64・65・71から縄文時代後晩期と考えられる土器片が出土しており、大まかな時期を推定することができる。

2 落とし穴

SK1(第11図 PL.6)

3区北西側のX1グリッドにあり、標高55.3mの傾斜地に立地する。

平面形は円形を呈し、直径0.92mを測る。検出面から土坑底面までの深さは1.2mで、底面ピット底まで含めると1.57mを測る。底面中央には直径15cm、深さ37cmのピットを伴う。

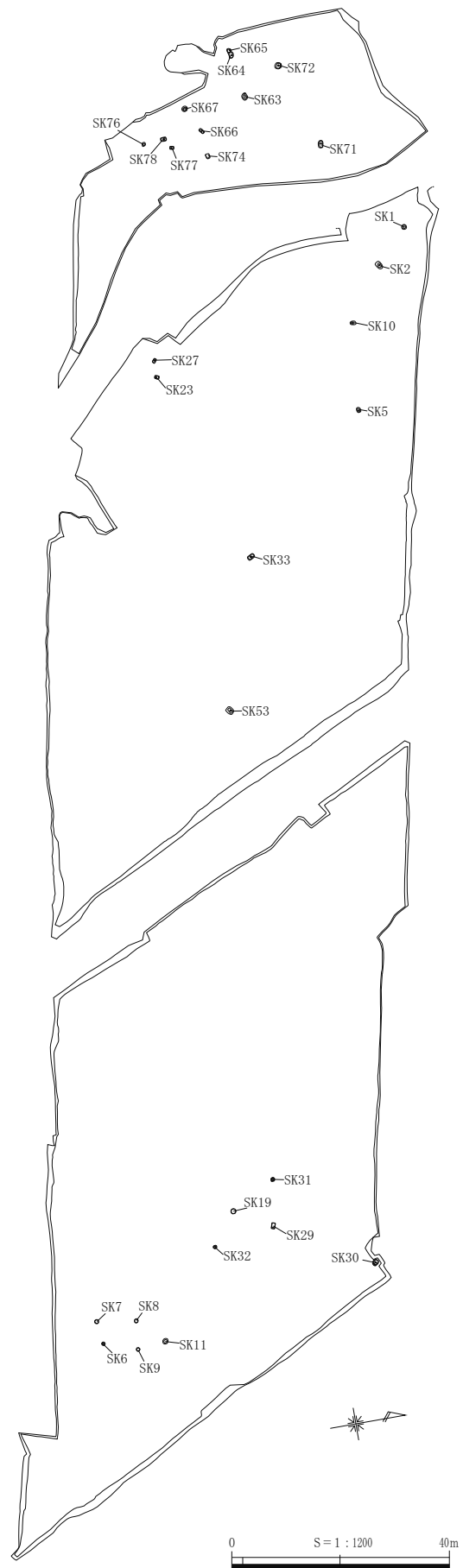
埋土は黒褐色シルトを主体とし、レンズ状に堆積する。

時期を判断する遺物は出土していないが、形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考えられる。

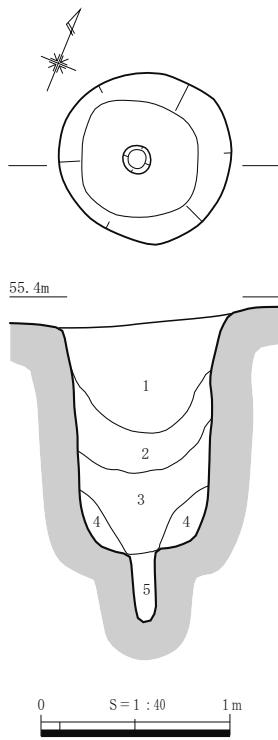
SK2(第12図 PL.6)

3区北西側のW2グリッドにあり、標高55.8mの傾斜地に立地する。

平面形は隅丸方形を呈し、長軸1.5m、短軸0.98mを測る。検出面から土坑底面までの



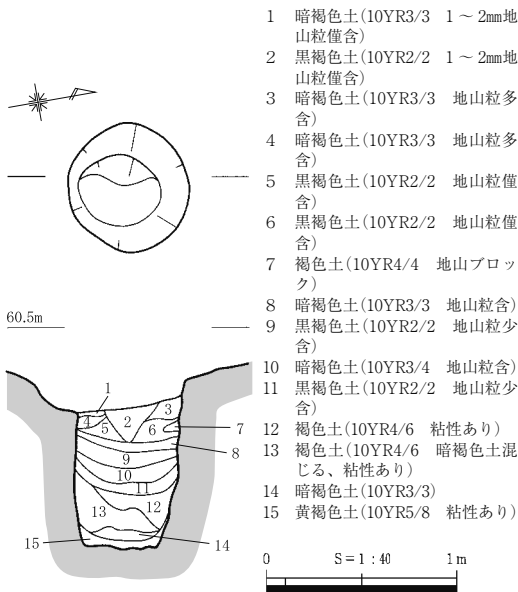
第10図 縄文時代遺構分布図



- 1 赤黒色土(7.5R2/1 砂質)
- 2 1に橙色砂質土(5YR6/6)ブロックが極少量混じる
- 3 1に橙色砂質土(5YR6/6)ブロックが少量混じる
- 4 1と橙色土(5YR6/6 砂質)の混濁土
- 5 橙色土(5YR6/6 砂質)

第11図 SK1

時期を判断する遺物は出土していないが、形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考えられる。



- 1 暗褐色土(10YR3/3 1~2mm地山粒僅含)
- 2 黒褐色土(10YR2/2 1~2mm地山粒僅含)
- 3 暗褐色土(10YR3/3 地山粒多含)
- 4 暗褐色土(10YR3/3 地山粒多含)
- 5 黒褐色土(10YR2/2 地山粒僅含)
- 6 黒褐色土(10YR2/2 地山粒僅含)
- 7 褐色土(10YR4/4 地山ブロック)
- 8 暗褐色土(10YR3/3 地山粒含)
- 9 黒褐色土(10YR2/2 地山粒少含)
- 10 暗褐色土(10YR3/4 地山粒含)
- 11 黒褐色土(10YR2/2 地山粒少含)
- 12 褐色土(10YR4/6 粘性あり)
- 13 褐色土(10YR4/6 暗褐色土混じる、粘性あり)
- 14 暗褐色土(10YR3/3)
- 15 黄褐色土(10YR5/8 粘性あり)

第14図 SK6

深さは1.22mで、底面ピット底まで含めると深さは1.51mを測る。底面中央には直径22cm、深さ29cmのピットを伴う。

埋土は黒褐色シルトを主体とし、レンズ状に堆積する。

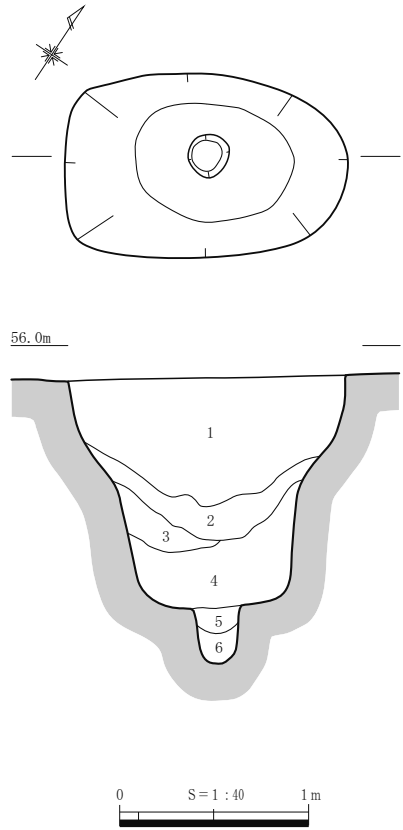
時期を判断する遺物は出土していないが、形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考えられる。

SK5 (第13図 PL.6)

3区西側のグリッドにあり、標高56.1mの平坦地に立地する。

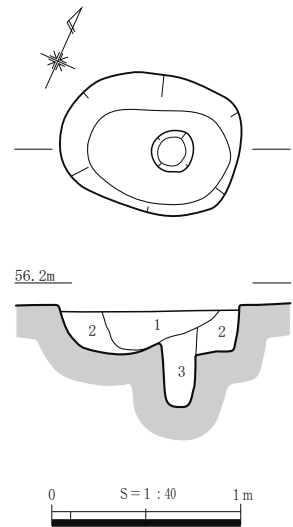
平面形は不整楕円形を呈し、長軸0.94m、短軸0.73mを測る。検出面から底面までの深さは0.22m、底面ピット底まで含めると0.53mを測る。底面中央には直径23cmのピットが掘り込まれる。遺構上部は削平により大きく失われており、残存深度は浅い。

埋土は黒褐色シルトを主体とした土が堆積する。



- 1 赤黒色土(7.5YR2/1 砂質)
- 2 1に橙色土(5YR6/6 砂質)ブロック混濁土
- 3 1のブロック土に橙色土(5YR6/6 砂質)ブロックが混じる
- 4 橙色土(5YR6/6 砂質)に1が少量混じる
- 5 橙色土(5YR6/6 粘質)
- 6 褐灰色土(7.5YR4/3 粘質)

第12図 SK2



- 1 黒褐色土(7.5YR1.7/1 粘質土。やや粘りあり。ややしまりあり)
- 2 暗灰褐色土(7.5YR2/3 粘質土。やや粘りあり。ややしまりあり)
- 3 暗灰黄褐色土(10YR2/2 粘質土。やや粘りあり。ややしまりあり。地山小ブロック混じる)

第13図 SK5

SK6 (第14図、PL.6)

4区南東側のD10グリッドに位置し、標高約60.1mの平坦地に立地する。

平面形は円形の形を呈し、径0.68mを測る、検出面からの深さは最大0.76mを測る。断面形はほぼ長方形である。底面は平坦で底面ピットは持たない。

埋土は、黒褐色土と暗褐色土を主体とする15層を確認した。多くの層には、地山由来のローム粒を含んでいる。

時期を判断する遺物は出土していないが、形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考えられる。

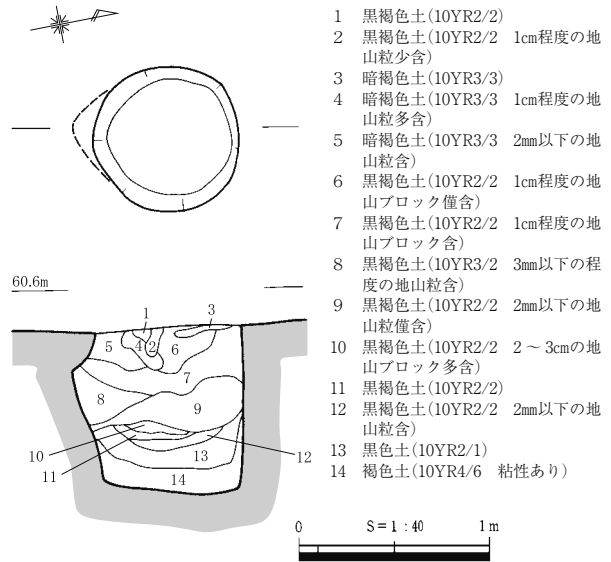
SK 7 (第15図、PL. 6)

4区南東側のE10グリッドに位置し、標高約60.4mの平坦面に立地する。

平面形は円形を呈し、径0.76mを測る。検出面からの深さは最大0.88mを測る。南側の壁面がオーバーハングしているのを除けば、断面形はほぼ方形である。底面は平坦で底面ピットは持たない。

埋土は、14層に分層できた。

時期を判断する遺物は出土していないが、形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考えられる。



第15図 SK 7

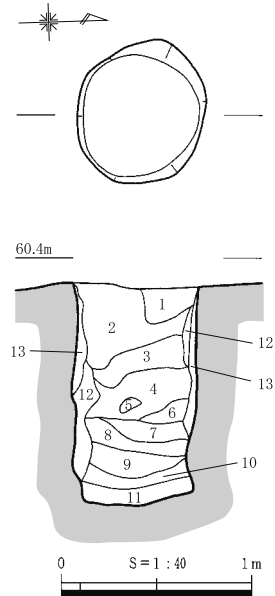
SK 8 (第16図)

4区南東側のE 9 グリッドに位置し、標高約60.3mの平坦面に立地する。

平面形は楕円形を呈し、長軸0.74m、短軸0.66mを測る。壁面はほぼ垂直で、断面形は長方形を呈する。底面までの深さは、最大1.14mを測る。底面は平坦で底面ピットは持たない。

黒褐色土を中心とする13層の埋土が確認された。

時期を判断する遺物は出土していないが、形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考えられる。

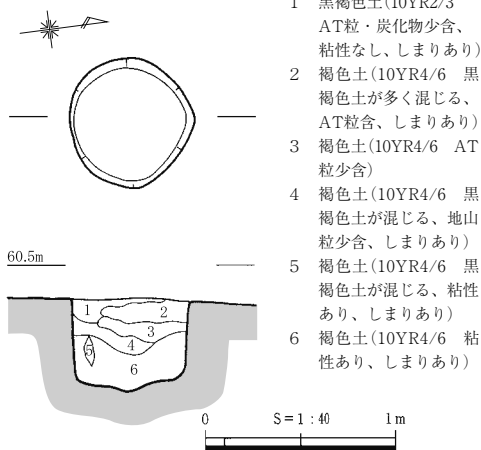


第16図 SK 8

SK 9 (第17図、PL. 6)

4区南東側のD 9 グリッド、SB6のプランの中に位置し、標高約60.3mのほぼ平坦面に立地する。

平面形は円形を呈し、径0.66mを測る。検出面からの深さは最大0.48mである。断面は長方形で、底面は平坦で底面ピットは持たない。



第17図 SK 9

埋土は地山由来と考えられる

ローム粒を含む褐色土が主体で、層によっては黒褐色土やATブロックが混じる。

時期を判断する遺物は出土していないが、形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考えられる。

SK10(第18・19図)

3区北側のU 2 グリッドにあり、標高約56.1mのほぼ平坦

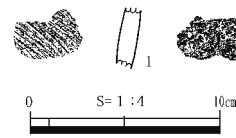
面に立地する。当遺構は、平成20年度確認調査で検出したSK2である。

平面形は不整楕円形を呈し、長軸1.07m、短軸0.68mを測る。検出面からの深さは、最大0.45mを測る。断面形はボウル状で、底面ほぼ中央に径16cm、深さ43cmを測る底面ピットを持つ。

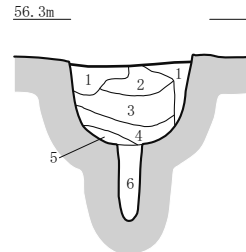
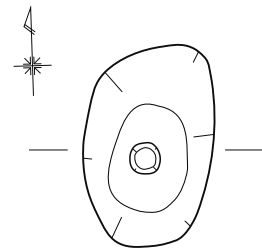
埋土は6層に分層できた。黒褐色土主体であるが、底面ピットは暗褐色土となる。

埋土中から、内外条痕をもつ縄文土器片1が出土している。

出土遺物及び形態的特徴から、縄文時代後晩期の落とし穴と考えられる。

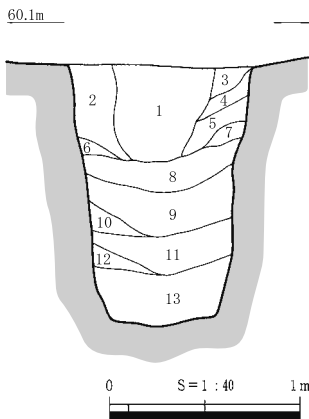
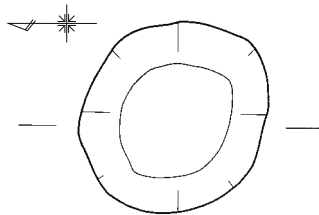


第18図 SK10出土遺物



- 1 黒褐色土(7.5YR3/2 径1cmのロームブロック多混。径0.3~0.5cmの炭化物粒少混。しまり強。粘性強。)
- 2 黒褐色土(7.5YR3/2 径0.5cmのローム粒混。径0.3cmの炭化物粒混。しまり強。粘性強。)
- 3 黒褐色土(7.5YR2/2 径0.5cmのローム粒混。径0.3cm以下の炭化物混。しまり強。粘性強。)
- 4 黒褐色土(7.5YR3/1 径0.5cmのローム粒混。微細な炭化物混。しまり強。粘性強。)
- 5 にぶい黄褐色土(10YR5/4 しまりやや弱。)
- 6 褐色土(10YR4/4 シルト。黒褐色シルトブロックを含む。しまり弱)

第19図 SK10



- 1 黒褐色土(10YR2/2 1cm程度の地山粒・炭化物少含)
- 2 黒褐色土(10YR2/2 1~3cmの地山ブロック含、炭化物少含)
- 3 黒褐色土(10YR2/2 1cm程度の地山粒・炭化物少含)
- 4 黒褐色土(10YR3/2 2cm程度の地山ブロック多含)
- 5 黒褐色土(10YR2/2 2mm以下の地山粒少含)
- 6 褐色土(10YR4/4 地山粒多含)
- 7 褐色土(10YR4/4 地山粒極多含)
- 8 黒褐色土(10YR2/2 1cm程度の地山粒・炭化物少含)
- 9 黒褐色土(10YR2/2 1~2mm・2~3cmの地山粒僅含)
- 10 にぶい黄褐色土(10YR4/3 地山粒多含)
- 11 黒褐色土(10YR2/2 1~2mmの地山粒少含)
- 12 にぶい黄褐色土(10YR4/3 地山粒多含)
- 13 黒褐色土(10YR2/2 2cm程度の地山ブロック少含)

第20図 SK11

い。

埋土は、黒褐色土を主体とする8層が交互に堆積していることを確認した。多くの層で地山由来のローム粒が混じる。

時期を判断する遺物は出土していないが、形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考えられる。

SK11(第20図、PL.7)

4区南東側のD9グリッドにあり、標高約59.9mの平坦面に立地する。

平面形は楕円形を呈し、長軸1.01m、短軸0.97mを測る。検出面からの深さは、最大1.37mを測る。断面形は長方形で、底面は平坦で底面ピットは持たない。

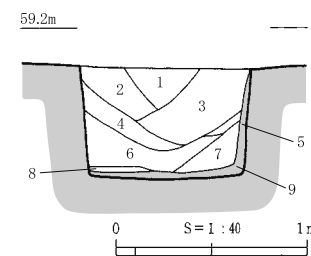
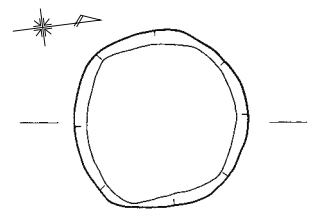
埋土は13層に分層できた。上部は黒褐色土主体で、下半部は黒褐色土とにぶい黄褐色土が交互に堆積する状況が認められる。

時期を判断する遺物は出土していないが、形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考えられる。

SK19(第21図、PL.7)

4区中央東寄りのF7グリッドに位置し、標高約59.0mの平坦面に立地する。

平面形は円形を呈し、径0.92mを測る。検出面からの深さは最大0.59mを測る。断面形は方形で、底面は平坦で底面ピットは持たない。



- 1 黒褐色土(10YR2/2 径1~2cmの地山粒含)
- 2 黒褐色土(10YR2/2)
- 3 暗褐色土(10YR3/3 径1~2mmの地山粒多含)
- 4 黒褐色土(10YR2/3 径5mm程度の地山粒少含)
- 5 黒褐色土(10YR3/1 径1cm以下の地山粒多含)
- 6 暗褐色土(10YR3/4 径2cm以下の地山粒含)
- 7 褐色土(10YR4/4)
- 8 黒褐色土(7.5YR2/2)
- 9 褐色土(10YR4/4 地山)

第21図 SK19

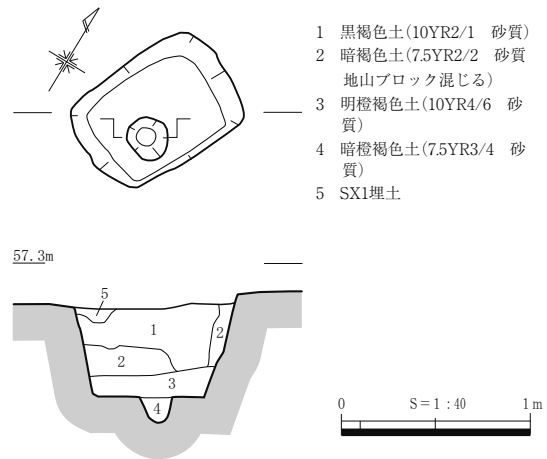
SK23(第22図、PL.7)

3区南西側のV6グリッドにあり、標高57.1m付近の平坦面に立地する。

平面形は隅丸長方形を呈し、長軸0.85m、短軸0.6mを測る。底面までの深さは最大0.5mを測る。底面のやや南よりに径約25cm、深さ約15cmを測るピットが掘り込まれている。

埋土は、上層から黒褐色土、暗褐色土、明橙褐色土、暗橙褐色土となる。

時期を判断する遺物はしていないが、形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考えられる。



第22図 SK23

SK27(第23図、PL.7)

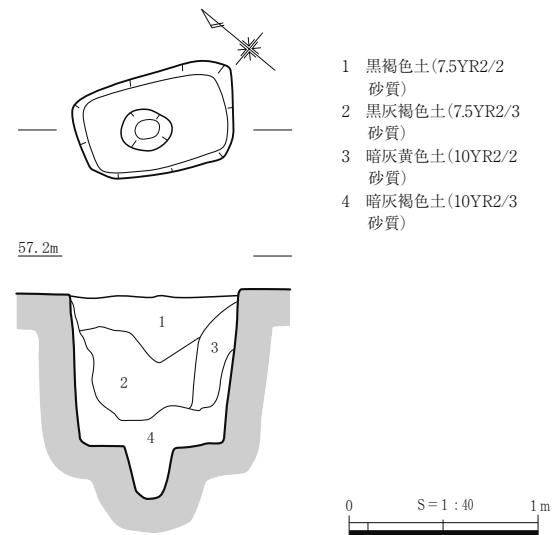
3区南西側のV6グリッドにあり、標高57.0m付近の平坦面に立地する。

平面形は隅丸長方形を呈し、長軸約0.85m、短軸約0.5m、底面までの深さ約85cmを測る。底面のやや西よりに径約25cm、深さ約25cmを測るピットが掘り込まれている。

埋土は、上層から黒褐色土、黒灰褐色土、暗灰黄色土、暗灰褐色土となる。

埋土(1層)から鍛冶滓が出土したが、後世の混入品である。

時期を判断する遺物は出土していないが、形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考えられる。



第23図 SK27

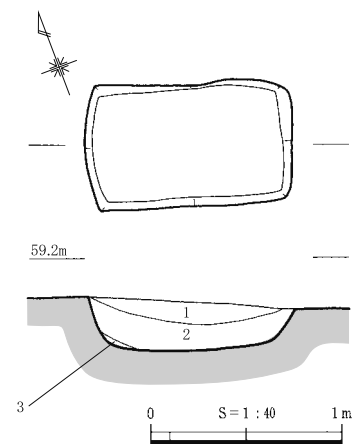
SK29(第24図)

4区東側のF7グリッド北端部に位置し、標高約59.0mの平坦面に立地する。

平面形はほぼ長方形を呈し、長軸1.09m、短軸0.64mを測る。検出面からの深さは最大0.26mを測る。

埋土は3層に分層でき、主体は黒色土である。

時期を判断する遺物は出土していないが、形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考えられる。



第24図 SK29

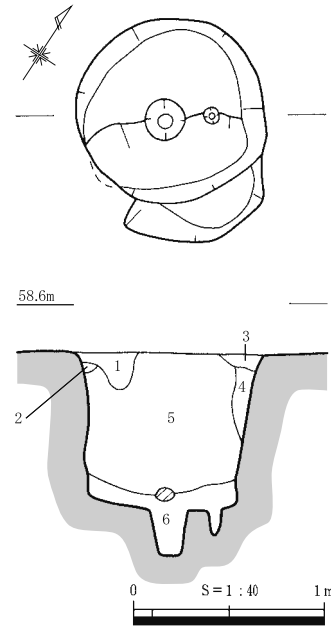
SK30(第25図、PL.7)

4区北東側のE5グリッドに位置し、標高約58.4mの平坦面で立地する。

南東部に浅い段差があるため平面形は不整形であるが、径0.98mの円形の平面形を呈する。方形の断面形で、底面までの深さは最大0.84mを測る。底面には、中央と北東寄りに2基のピットが確認された。中央のピットは径21cm、深さ24cm、北東寄りのピットは径8cm、深さ12cmを測る。中央のピットからは数個の円礫が出土しており、これによって杭を固定していたものと考えられる。

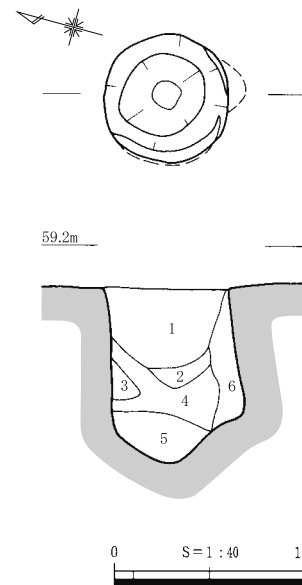
黒色土を主体とする6層の埋土が堆積する。

時期を判断する遺物は出土していないが、形態的な特徴から縄文時代の落とし穴と考えられる。



- 1 暗褐色土(10YR3/3 5～10mm地山粒含)
- 2 褐色土(10YR4/4 地山ブロック)
- 3 黒褐色土(10YR3/2)
- 4 褐色土(10YR4/4 粘性あり)
- 5 黒色土(10YR1.7/1 6との境に円礫)
- 6 褐色土(10YR4/4 粘りあり)

第25図 SK30



- 1 黒褐色土(10YR3/2 3mm大のローム粒含む)
- 2 暗褐色土(10YR3/3)
- 3 黒褐色土(10YR3/2 しまりやや弱い)
- 4 暗褐色土(10YR3/3)
- 5 黒褐色土(10YR2/2 しまり弱い)
- 6 褐色土(10YR4/4 粘性有)

第26図 SK31

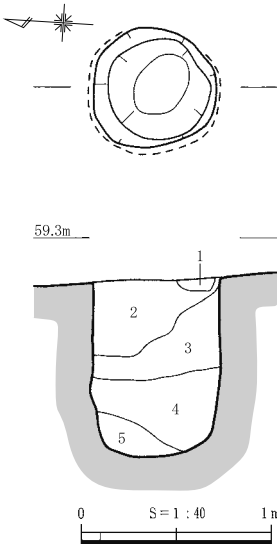
SK31(第26図、PL.7)

4区G6グリッドに位置し、標高約59.0mの平坦面で立地する。上部が大きく削平されていると考えられる。

平面形は円形を呈し、径0.68mを測る。断面形はオーバークラップしている部分はあるが、砲弾形であり、底面までの深さは最大0.92mを測る。

埋土は、黒褐色土と暗褐色土が交互に堆積している様子が確認できた。底面は平面ではなく中央に向かって播鉢状を呈するため、杭などを埋めていた可能性も考えられる。

時期を判断する遺物は出土していないが、形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考えられる。



- 1 褐色土(10YR4/6 地山ブロック)
- 2 黒色土(10YR2/1 1～2cm地山ブロック僅含)
- 3 暗褐色土(10YR3/3 5～10mm地山粒含)
- 4 黒褐色土(10YR3/2 2～5mm地山粒含)
- 5 褐色土(10YR3/2 2～5mm地山粒多含)

第27図 SK32

SK32(第27図、PL.8)

4区F8グリッドにあり、標高約59.1mの平坦面に立地する。

平面形は円形を呈し、径0.68mを測る。底面までの深さは、最大で0.94mを測る。

黒褐色土を中心とする5層の埋土を確認した。

時期を判断する遺物は出土していないが、形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考えられる。

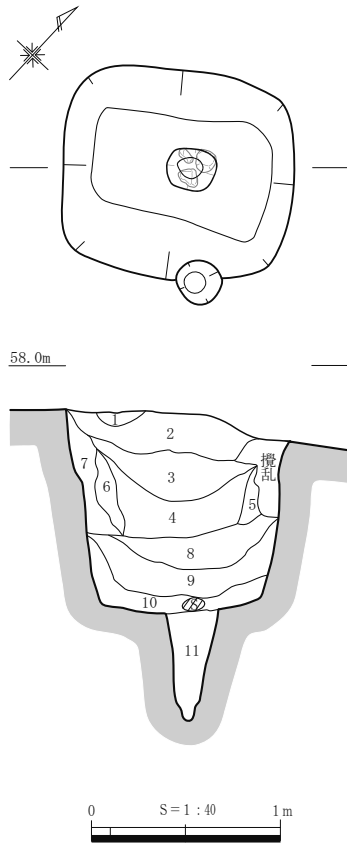
SK33(第28図、PL.8)

3区中央R5グリッドにあり、標高57.5mの平坦地に立地する。

平面形は長方形を呈し、長軸1.37m、短軸0.8mを測る。検出面から土坑底面までの深さは0.53m、底面ピットの底まで含めると0.96mを測る。底面中央には長軸37cm、短軸31cm、深さ43cmのピットを伴う。遺構上部は削平により大きく失われており、残存深度は浅い。

埋土は黒褐色シルトを主体とし、レンズ状に堆積する。

時期を判断する遺物は出土していないが、形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考えられる。



- 1 褐色土(10YR4/4 シルト)
- 2 黒褐色土(10YR2/2 シルト)
- 3 黒褐色土(10YR2/2 ローム細粒を少量含む)
- 4 黒褐色土(10YR2/2 ロームブロックを少量含む)
- 5 黒褐色土(10YR2/2 ローム細粒を含む)
- 6 黒褐色土(10YR2/2)
- 7 暗褐色土(10YR3/4 シルト、ロームブロックを含む)
- 8 黒褐色土(10YR2/2 シルト、ロームブロックを少量含む)
- 9 黒褐色土(10YR2/2 &より締めあり)
- 10 暗褐色土(10YR3/4 シルト、ローム細粒を多く含む)
- 11 黒褐色土(10YR2/2 シルト)

第29図 SK53

0.93mを測る。底面ほぼ中央に径16cm、深さ30cmのピットがある。

埋土は、黒褐色土を主体とする5層に分層できた。

時期を判断する遺物は出土していないが、形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考えられる。

SK64・SK65(第31図、PL.9)

1区中央西側のa4グリッドにあり、標高約49.2m～49.6mの斜面に立地する。2基の落とし穴が重複している。断面の記録をとる前に埋土の大部分を掘り下げてしまい図化はできなかったが、掘り下げ時の観察により、SK64がSK65を掘り込んでいたことがわかった。

SK53(第29図、PL.8)

3区東側O5・P5グリッドにあり、標高57.5mの平坦地に立地する。

平面形は長方形を呈し、長軸1.23m、短軸1.11mを測る。検出面から土坑底面までの深さは1.06m、底面ピット底まで含めると1.64mを測る。底面中央には長軸26cm、短軸21cm、深さ58cmのピットをとまなう。底面ピット内には円礫が確認される。

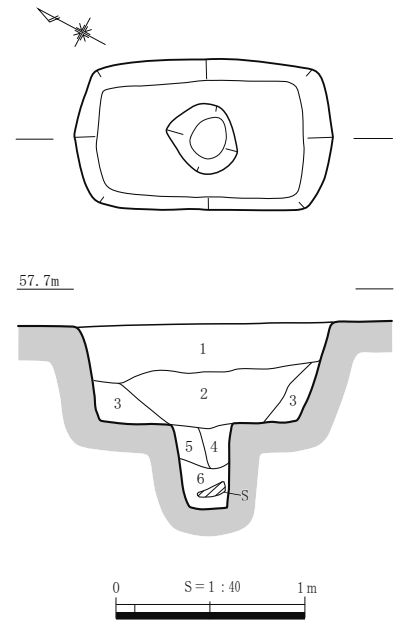
埋土は黒褐色シルトを主体とし、レンズ状に堆積する。

時期を判断する遺物は出土していないが、形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考えられる。

SK63(第30図、PL.8)

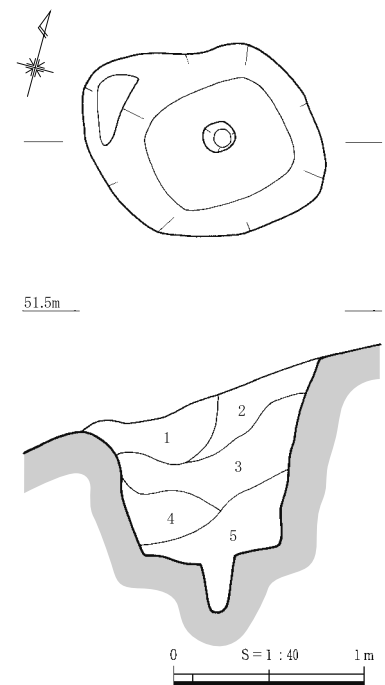
1区北西側のa3グリッドに位置し、標高51.0m付近の斜面に立地する。

平面形は不整楕円形を呈し、長軸1.23m、短軸0.96mを測る。断面は西側に小さなテラス状の段差はあるが概ね逆台形で、底面までの深さは最大



- 1 黒褐色土(10YR1.7/1 シルト、黄褐色ローム細粒を含む)
- 2 黒褐色土(10YR1.7/1 シルト)
- 3 黒褐色土(10YR1.7/1 シルト、2よりしり弱い)
- 4 黒褐色土(10YR2/2 シルト、黄褐色ローム細粒を含む)
- 5 黒褐色土(10YR2/2 シルト、黄褐色ローム細粒を多く含む)
- 6 暗褐色土(10YR4/6 シルト、黄褐色ロームブロックを多く含む。しり弱い)

第28図 SK33



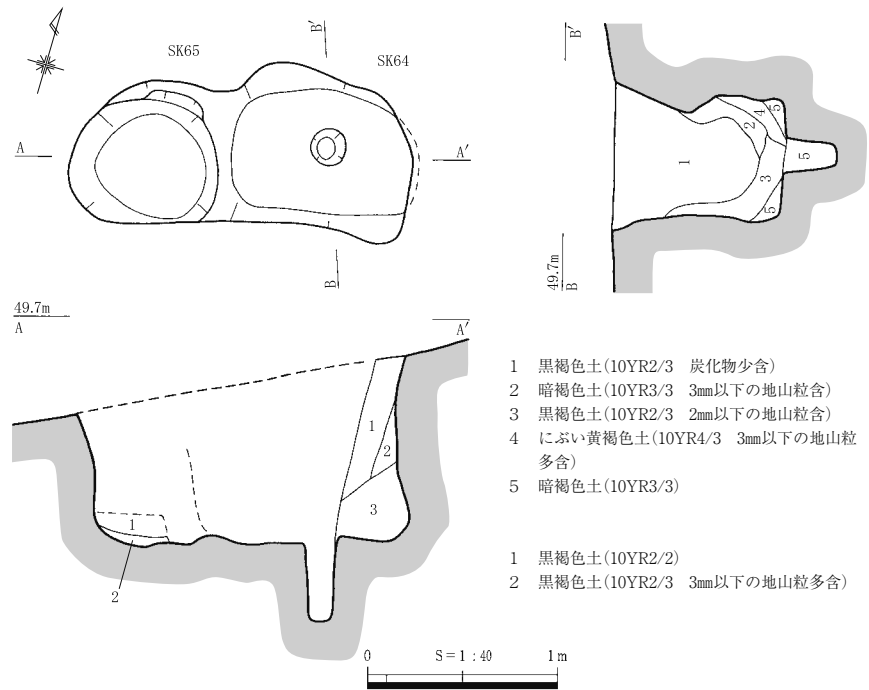
- 1 黒褐色土(10YR3/3 1cm以下の地山粒少含、しり弱い)
- 2 黒褐色土(10YR3/2 2cm以下の地山ブロック含)
- 3 黒褐色土(10YR2/3 5mm以下の地山粒多含)
- 4 黒褐色土(10YR2/2 1cm以下の地山粒僅含)
- 5 黒色土(10YR2/1)

第30図 SK63

SK64は、平面形は不整形長方形を呈すと推定され、長軸は推定1.0m程度、短軸は0.81mを測り、断面形は東側壁が袋状を呈しており、深さは最大0.98mを測る。底面ほぼ中央付近には、径18cm、深さ44cmのピットがある。

埋土は黒褐色土を主体としているが、底部付近は、褐色系の土が交互に堆積していた。

図化はできなかったが、SK64埋土中から内面条痕の入る縄文土器が出土している。



第31図 SK64・65

SK64は、出土土器及び形態的な特徴から縄文時代後晩期ごろの落とし穴と考えられる。

SK65は、平面形は不整形楕円形を呈し、長軸は推定で0.80m程度、短軸は0.64mを測る。断面形は長方形に近い。検出面からの深さは最大0.76mを測る。底面ピットは持たない。

埋土は、黒褐色土系となる。

SK65からは遺物が出土していないが、SK64との重複関係及び形態的な特徴から縄文時代後晩期以前の落とし穴と考えられる。

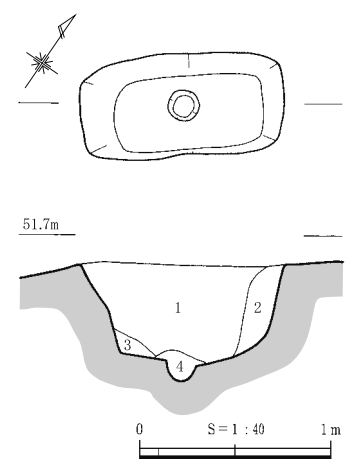
SK66(第32図、PL. 8)

1区北西側のa3グリッドに位置し、標高51.5m付近の斜面に立地する。

平面形は長方形を呈し、長軸1.08m、短軸0.52mを測る。断面形はやや不整形の逆台形を呈し、底面までの深さは最大0.49mを測る。底面中央やや北寄りに、径17cm、深さ11cmのピットが確認された。

埋土は、黒褐色土を主体とする4層が確認された。

時期を判断する遺物は出土していないが、形態的な特徴から縄文時代の落とし穴と考えられる。

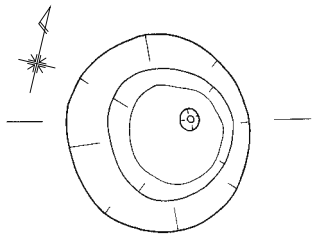


第32図 SK66

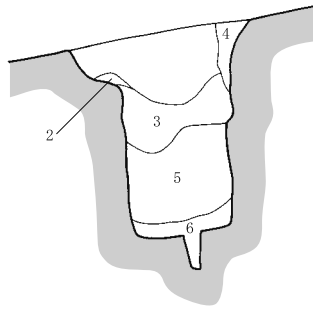
SK67(第33図、PL. 8)

1区西側のa5グリッドに位置し、標高50.6m付近の斜面に立地する。

平面形は円形を呈し、長軸1.05m、短軸0.96mを測る。上部のテラス



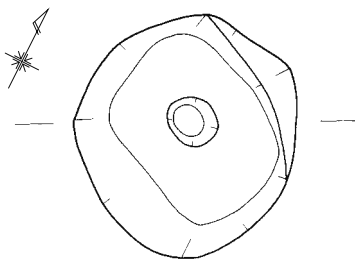
50.8m



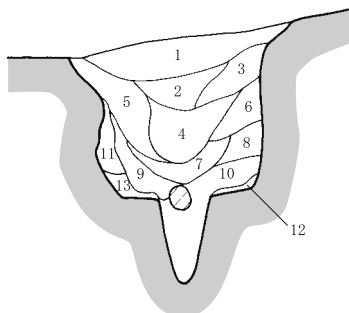
0 S=1:40 1m

- 1 暗褐色土(10YR3/3)
- 2 褐色土(10YR4/4)
- 3 暗褐色土(10YR3/3 2cm以下の地山ブロック含)
- 4 褐色土(10YR4/4 3cm以下の地山粒含)
- 5 黒褐色土(10YR2/3)
- 6 褐色土(10YR4/4)

第33図 SK67



50.8m



0 S=1:40 1m

- 1 にぶい黄褐色土(10YR4/3 炭化物・3mm以下の地山粒僅含、粘性弱、しまり弱)
- 2 暗褐色土(10YR3/3 3cm程度の風化した地山ブロック含、しまり弱)
- 3 黒褐色土(10YR3/2 1cm以下の地山粒少含)
- 4 黒褐色土(10YR3/2 2~3cmの風化した地山粒多含)
- 5 黒褐色土(10YR3/1 5mm以下の地山粒少含)
- 6 黒褐色土(10YR3/1 1cm以下の地山粒含)
- 7 黒褐色土(10YR3/2 1cm以下の地山粒含)
- 8 暗褐色土(10YR4/3 2mm以下の地山粒極多含)
- 9 黒褐色土(10YR3/1 1cm以下の地山粒多含)
- 10 黒色土(10YR2/1 5mm以下の地山粒少含)
- 11 にぶい黄褐色土(10YR4/3 5mm以下の地山粒極多含)
- 12 黒褐色土(10YR3/1)
- 13 褐色土(10YR4/4 しまり強)

第36図 SK72

状の段差を除けば、ほぼ長方形の断面形を呈し、底面までの深さは最大で1.07mを測る。底面中央やや北よりに、径12cm、深さ20cmのピットを確認した。

埋土は、暗褐色土、黒褐色土を主体とする6層を確認した。

時期を判断する遺物は出土していないが、形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考えられる。

SK71(第34・35図、PL.9・36)

1区北東側のY2グリッドとZ2グリッドにまたがって位置し、標高約53.3mの傾斜変換点付近に立地する。

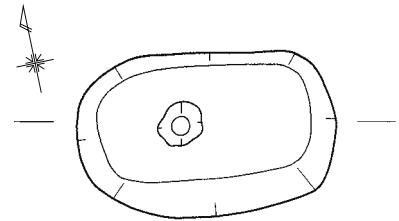
平面形は楕円形を呈し、長軸1.38m、短軸0.86mを測る。断面形はほぼ長方形を呈し、底面までの深さは最大0.78mを測る。底面には、中央やや西寄りに径22cm、深さ23cmのピットを確認した。このピット

の上部壁面には最大径13cmの円礫を確認し、杭をおさえるためのものと考えられる。

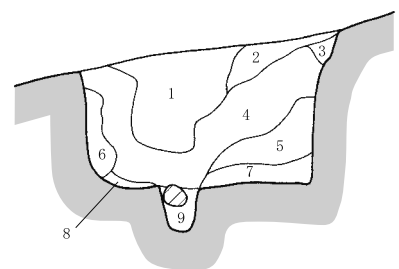
埋土は、黒色土と黒褐色土を中心とする9層を確認した。

埋土中から内外面条痕が入る粗製土器2が出土した。

出土遺物と形態的特徴から、縄文時代後晩期の落とし穴と考えられる。



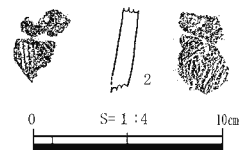
53.5m



0 S=1:40 1m

- 1 黒褐色土(10YR2/2 5mm以下の地山粒僅含、粘性弱、しまり弱)
- 2 黒色土(10YR2/1 粘性弱、しまり弱)
- 3 暗褐色土(10YR3/4 粘性弱、しまり弱)
- 4 黒色土(10YR1.7/1 5mm以下の地山粒僅含、粘性弱、しまり弱)
- 5 黒色土(10YR2/1 3mm以下の地山粒僅含)
- 6 黒褐色土(10YR3/2 2cm以下の地山ブロックを壁際に含む)
- 7 黒色土(10YR1.7/1 2mm以下の地山粒底面付近に含む)
- 8 褐色土(10YR4/4)
- 9 黒褐色土(10YR2/2 礫含、しまり弱)

第34図 SK71



第35図 SK71出土遺物

SK72(第36図)

1区北西側のa3グリッドに位置し、標高約50.6m付近の緩斜面上に立地する。

平面形は不整楕円形を呈し、長軸1.30m、短軸1.16mを測る。断面形はやや袋状を呈し、底面までの深さは最大1.06mを測る。底面ほぼ中央に径26cm、深さ46cmのピットを確認した。SK71と同様に、ピット上部壁面に径11cmの礫を確認し、杭が設置されていたと考えられる。

埋土は、黒褐色土を中心とする13層が確認でき、レンズ状に堆積している。

時期を判断する遺物は出土していないが、形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考えられる。

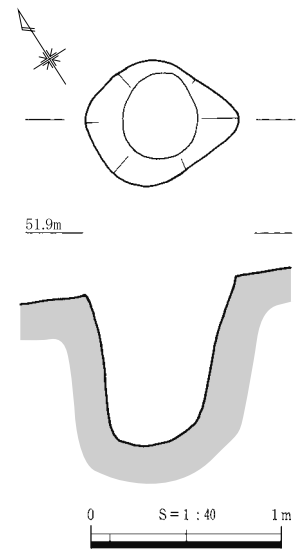
SK76(第37図)

1区南西側のZ5グリッドに位置し、標高約51.6～51.7mの斜面部に立地する。

平面形は菱形に近い隅丸方形を呈し、長軸0.81m、短軸0.66mを測る。断面はほぼ砲弾形であり、深さは最大で0.82mを測る。

埋土は、記録することができなかったため不明であるが、黒褐色土系の埋土であった。

時期を判断する遺物は出土していないが、形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考えられる。

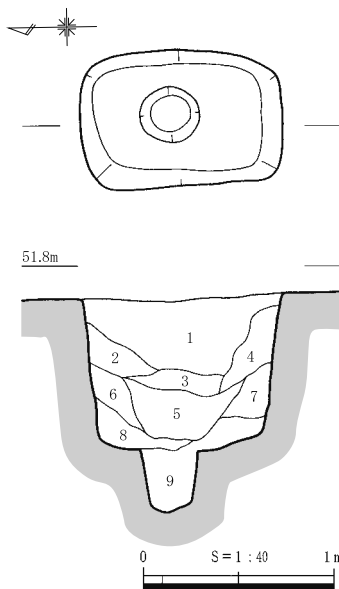


第37図 SK76

SK77(第38図、PL.9)

1区中央やや南側のZ5グリッドに位置し、標高約51.9mの斜面部に立地する。北東約2mにSK78がある。

平面は隅丸長方形を呈し、長軸0.77m、短軸0.43mを測る。壁面はほぼ垂直で、断面形は不整長方形を呈する。底面までの深さは最大0.36mを測る。底面中央やや南寄りに、径13cm、深さ10cmのピットを確認した。



1. 暗褐色シルト土層(7.5YR3/4 炭化物含)
2. 極暗褐色シルト土層(7.5YR2/3)
3. 極暗褐色シルト土層(7.5YR2/3 2よりしまり弱)
4. 極暗褐色シルト土層(7.5YR2/3 地山細粒、炭化物含)
5. 極暗褐色シルト土層(7.5YR2/3 3・4よりしまり弱)
6. 極暗褐色シルト土層(7.5YR2/3 炭化物多含)
7. 極暗褐色シルト土層(7.5YR2/3 地山細粒、炭化物含)
8. 極暗褐色シルト土層(7.5YR2/3 3～7よりしまり強)
9. 褐色シルト土層(10YR4/4 地山ブロック含)

第39図 SK78

埋土は、黒褐色土系の2層を確認した。

時期を判断する遺物は出土していないが、形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考えられる。

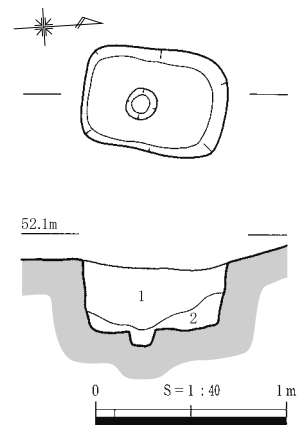
SK78(第39図、PL.9)

1区中央やや南側のZ5グリッドに位置し、標高約51.6mの斜面部に立地する。南西約2mにSK77がある。

平面形は隅丸長方形を呈し、長軸1.09m、短軸0.72mを測る。断面はほぼ方形を呈し、底面までの深さは0.79mを測る。底面ほぼ中央には、径31cm、深さ32cmのピットを確認した。

埋土は、極暗褐色を中心とする9層を確認した。いずれもほぼレンズ状に堆積している。

時期を判断する遺物は出土していないが、形態的特徴から縄文時代の落とし穴と考えられる。



1. 黒褐色シルト土層(10YR2/2 炭化物含)
2. 暗褐色シルト土層(10YR3/3 地山細粒含)

第38図 SK77